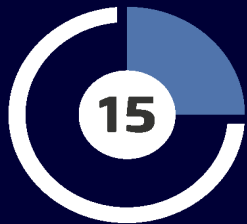


FlexPro 2025

Data Analysis & Presentation



**Get to know FlexPro
in just 15 minutes**

15分で知る FlexPro のすべて

このチュートリアルでは、FlexPro の構造と基本的なコマンド・メソッドの概要を説明しています。

重要 始める前に、この最初のトピックを読んでおいてください。

[FlexPro のデータ管理](#)  4

代替インポートオプション

[FlexPro に手動でデータを入力する](#)  6

[Excel データをインポートする](#)  8

[計測機器から取得したデータをインポートする](#)  11

[テキストデータ \(ASCII ファイル\) をインポートする](#)  13

データの解析とプレゼンテーション

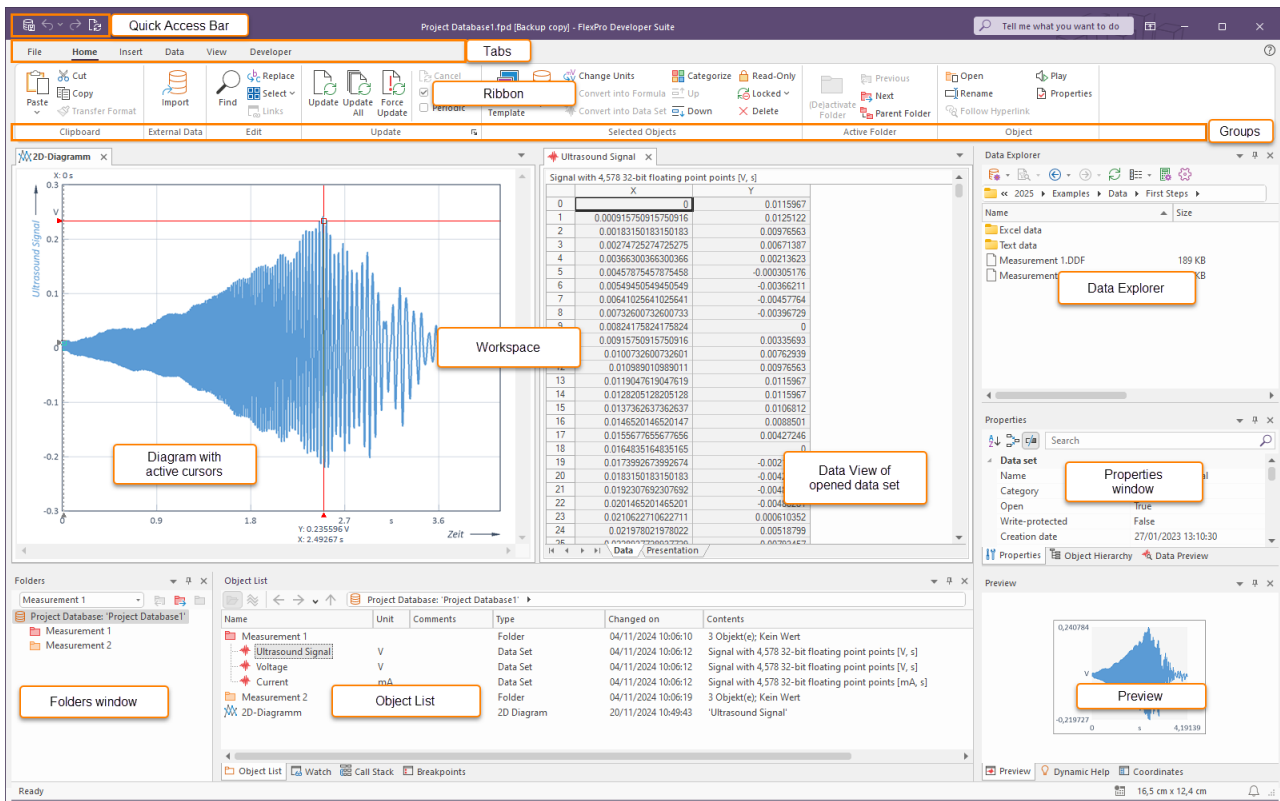
[ダイアグラムの作成と編集](#)  16

[ドキュメントを作成する](#)  24

[FlexPro の計算機能](#)  28

[データのプレゼンテーションと計算をボタンひとつで自動処理](#)  31

FlexPro のデータ管理



FlexPro では、ユーザー自身で作成するデータセットやダイアグラム、フォルダといった各種オブジェクトは、いずれも FlexPro の「フォルダ」ウィンドウに表示される単一のプロジェクトデータベースに保存されます。FlexPro ウィンドウの「オブジェクトリスト」には、既にサンプルとしていくつかのオブジェクトが表示されています。これらのサンプルオブジェクトは、FlexPro を起動した時点ではまだ表示されていません。

FlexPro のメインウィンドウの構造

● リボン

各種コマンドを選択する部分です。リボンは機能に応じていくつかのタブに分かれています。一度に選択できるタブは1つだけです。この例はホームタブを表示した状態です。タブを切り替えるには、そのタイトルをクリックします。コマンドはグループ化して配置されています。各コマンドの名前はアイコンの下に表示されています。FlexPro のドキュメントでは、コマンドの場所をあらわすのに次の構文を使用します：タブ名 [グループ名] > コマンド名。例：ホーム [クリップボード] > コピー。アイコンの中には、エントリを選択できるものもあります。エントリを選択できるアイコンには、その横または下に小さな矢印があることで識別できます（例：ホーム [クリップボード] > 貼り付け > 形式を指定して貼り付け）。

● クイックアクセスツールバー

よく使うコマンドについては毎回タブを切り替えなくともアクセスできるよう、ここに表示されます。

● フォルダウィンドウ

ユーザー自身で作成したフォルダが、ここに表示されます。フォルダのいずれかを選択するとオブジェクトリストにその内容が反映されます。

● オブジェクトリスト

たとえば、データセットやダイアグラムを新規作成すると、それらはオブジェクトとしてこのオブジェクトリストに表示されます。現在作業しているデータ、ダイアグラム、式といったオブジェクトの概要をここで確認できます。

● データエクスプローラ

データエクスプローラには、選択したビューに応じて、お使いのハードディスクのファイルやインデックス付きデータが表示されます。

● オブジェクト階層

このウィンドウには、オブジェクトリストに表示されているオブジェクトが階層構造であらわされます。オブジェクトを再構築する際、直接的または間接的にリンクするオブジェクトの関係が分かりやすく表示されます。

● プレビュー

プレビューウィンドウには、オブジェクトリストや他のウィンドウにあるデータセット等のオブジェクトの内容が表示されます。オブジェクトをダブルクリックして開かなくても、その概要を把握することができます。

- データのプレビュー

データのプレビューは、データセット専用設計された高機能なプレビューウィンドウです。データセットを選択した状態で、その内容が曲線としてここに表示されます。データカーソルを使えば、データを計測したり、カーソル間のセグションを拡大表示することができます。

- プロパティウィンドウ

プロパティウィンドウを使えば、選択状態にあるオブジェクトの各種プロパティを素早く編集できます。

- ダイナミックヘルプ

このウィンドウには、現在処理をおこなっているオブジェクトや現在作業を行っているウィンドウに関連する有益な情報や手順が動的に選択表示されます。ヘルプピックをクリックするとそれぞれの内容が表示されます。

- ワークスペース

現在開いているオブジェクトのウィンドウがタブ区切りでここに表示されます。各フォルダは通常オブジェクトリストに表示されますが、このウィンドウにフォルダを表示させることも可能です。上の図の右側には、選択したフォルダのデータビューを示すもので、フォルダに含まれる全てのデータセットがグリッド形式で表示されています。

注意 FlexPro で行ったステップは、いつでもアンドウで元に戻すことができます。クイックアクセスツールバーにある「元に戻す/やり直し」アイコンをクリックしてください。

次のステップは、データの形式によって異なります。4 つのオプションのいずれかを選択します:

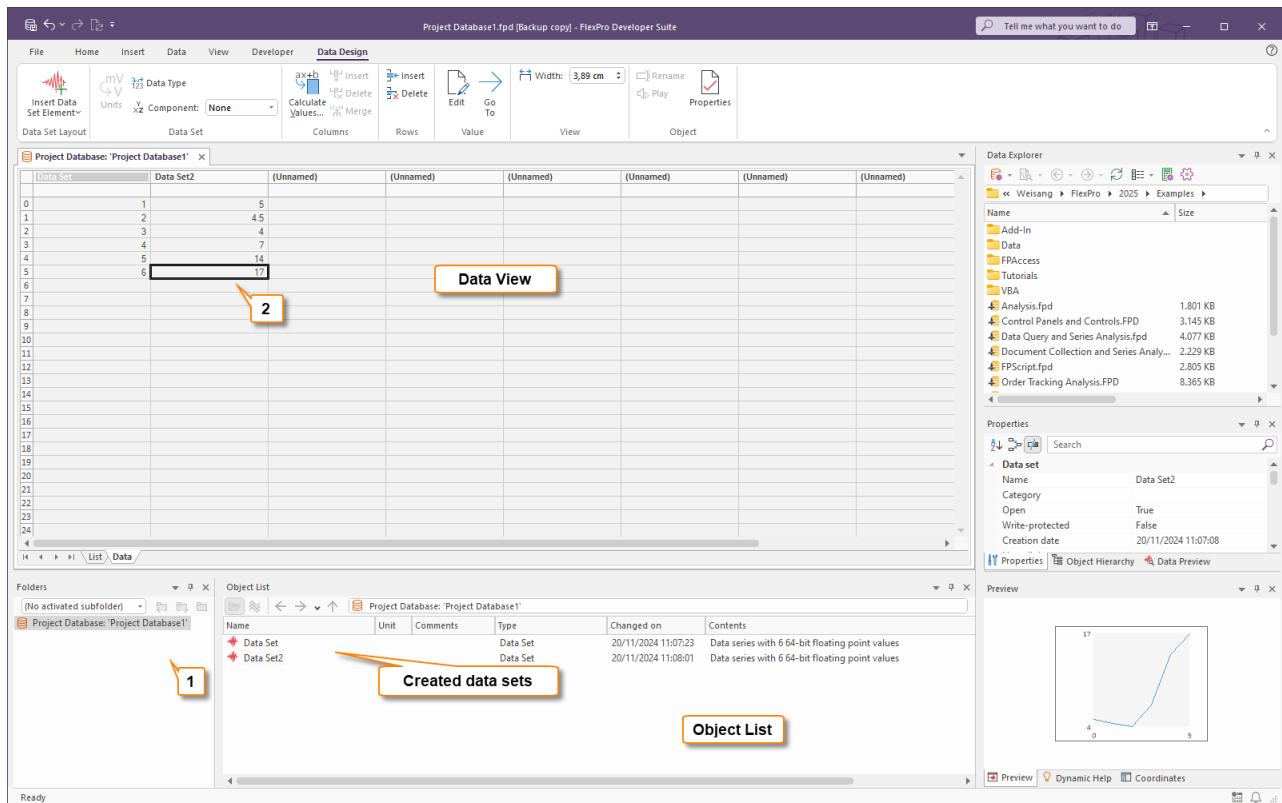
[FlexPro に手動でデータを入力する](#) 

[Excel データをインポートする](#) 

[計測機器から取得したデータをインポートする](#) 

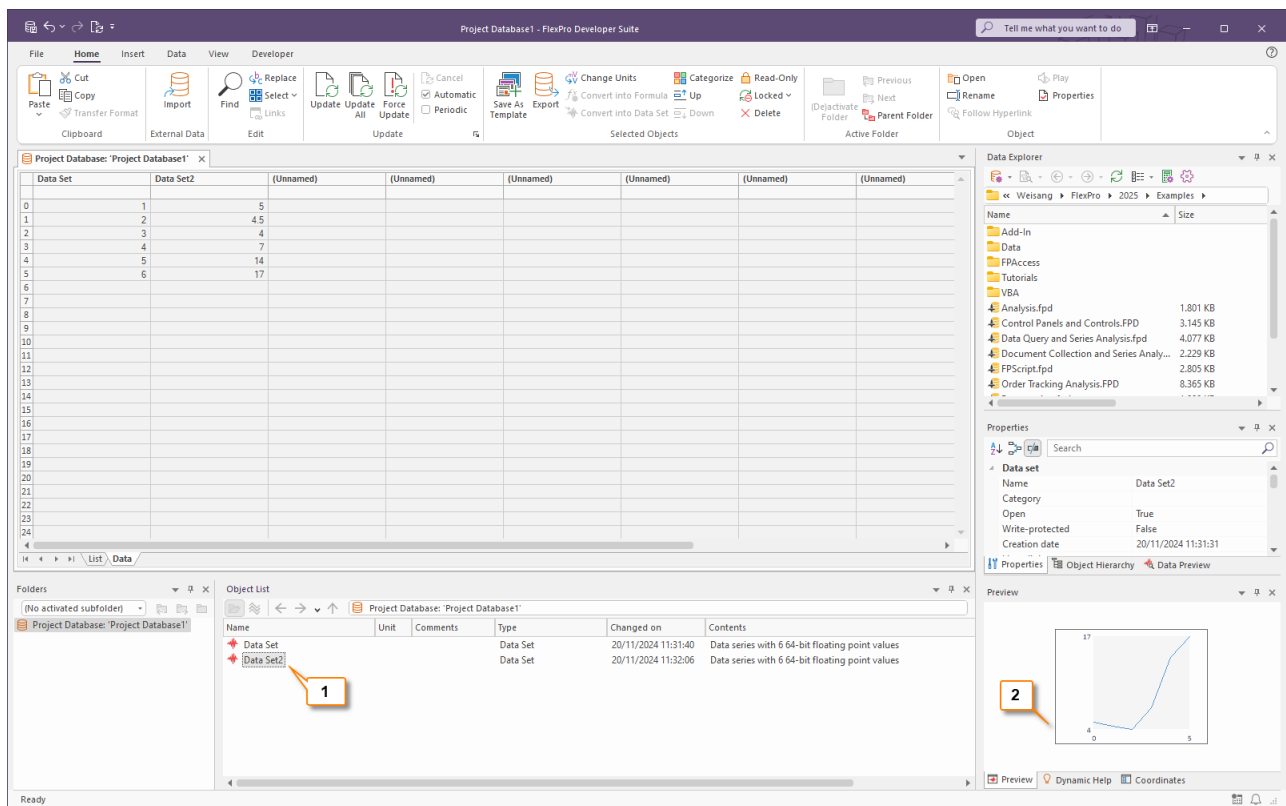
[テキストデータ\(ASCII ファイル\)をインポートする](#) 

FlexPro に手動でデータを入力する



フォルダウィンドウの1行目のルートフォルダを右クリックし、コンテキストメニューから開くを選択して開きます [1]。

データビューに表示されているように1列目と2列目に数値を入力します [2]。オブジェクトリストには、自動的に2つのオブジェクト、データセットとデータセット2が作成されます。



インポートしたデータをチェックするには、オブジェクトリストに作成されたデータのいずれかを選択します [1]。プレビュー内容が曲線として表示されます [2]。

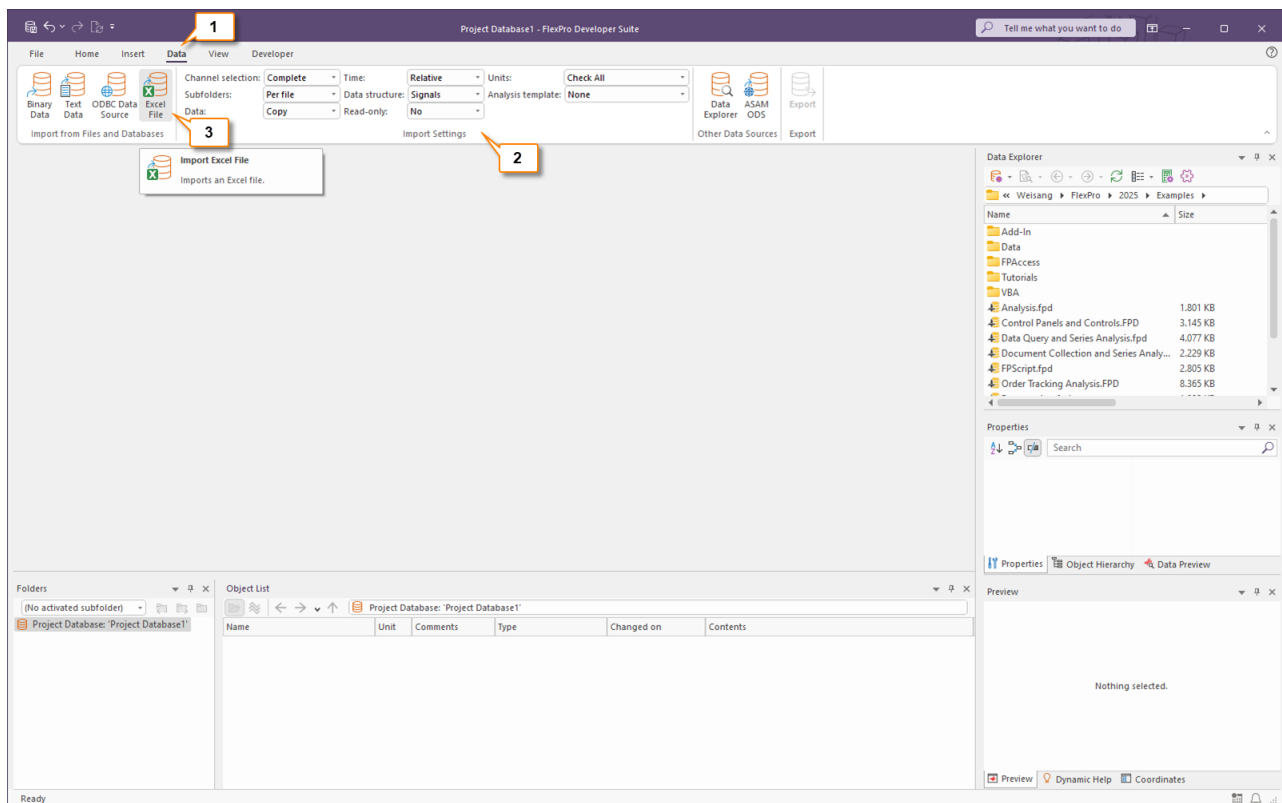
注意: このチュートリアル次のステップは、インポートするデータに応じて変わります。使用するインポート法のいずれかを選択してください。

[Excel データをインポートする](#) [8]

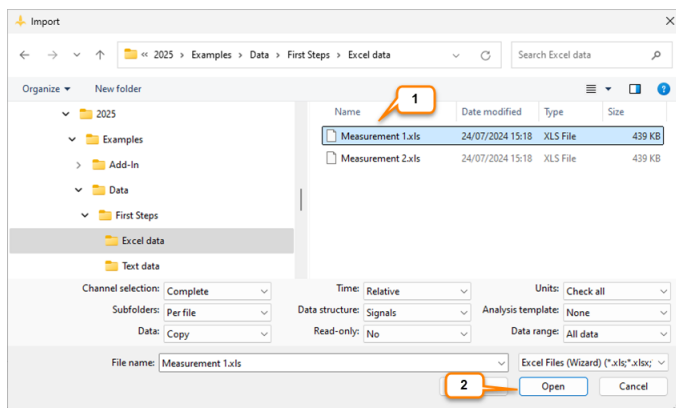
[計測機器から取得したデータをインポートする](#) [11]

[テキストデータ\(ASCII ファイル\)をインポートする](#) [13]

Excel データをインポートする



1. パネルのデータタブをクリックします [1]。インポートの設定のオプションを図のように設定します [2]。
[ファイルやデータベースからインポート] > Excel ファイルをクリックします [3]。



インポート ダイアログボックスが開きます。次のパス C:\Users\Public\Documents\Weisang\FlexPro\<%
VERSION_COMMERCIAL%> を選択するか、日本語のフォルダー名で C:\ユーザー\パブリック\パブリックのドキュメント>Weisang>FlexPro><%
VERSION_COMMERCIAL%> に移動します。更に、サブフォルダ Examples\Data\First Steps\Excel data に移動して
Measurement 1.xls を選択します [1]。「開く」をクリックします [2]。

Excel Data Import Wizard - Step 1 of 4 - File Settings

Select saved import scheme: (no schema) File Path: C:\Users\Public\Documents\Weisang\Files\Measurement 1.xls

Data Storage

☐ Import all sheets Sheet: ☒ Measurement 1

Orientation: Read data sets by column Data structure: Data series or signal(s)

Data Range

Data range from row: 7 to (End of file)

Data range from column: 1 to (End of file)

Content: Measurement 1 Columns found: 4

	1 (X)	2 (Y)	3 (Y)	4 (Y)
1	Engineer	Taylor		
2	Device SN	1.642		
3	Frequency	2 MHz		
4	Diameter	24 mm		
5	Start Time	01/06/2024 13:15:30		
6	Time	s	Ultrasound Signal	V
7	0	0.012	0	33
8	0.0009157509	0.013	0.004	33.185
9	0.0018315018	0.01	0.008	33.371
10	0.0027472527	0.007	0.012	33.556
11	0.0036630037	0.002	0.016	33.741
12	0.0045787546	0	0.021	33.926

< Back Next > Finish Cancel

選択されたデータセットの構造はFlexProにより自動的に認識されます。データセットの構造は見つかった列に表示される値で確かめることができます [1]。「完了」をクリックします [2]。

注意 お持ちのデータをインポートする場合、ウィザードの次のページに表示されるデータを正しく解釈するための設定が必要になる場合があります。このウィザードで設定した内容を保存しておけば、次回以降、同様のデータ構造を素早くインポートすることができます。これを行うには、インポートスキーマを保存 オプションをウィザードの最後のページで選択します。

Verify Units

FlexPro did not find any unknown units in the data sets being imported.
Check for issues such as upper and lower case spelling of the units anyway, and enter a description for the physical quantity, if applicable.

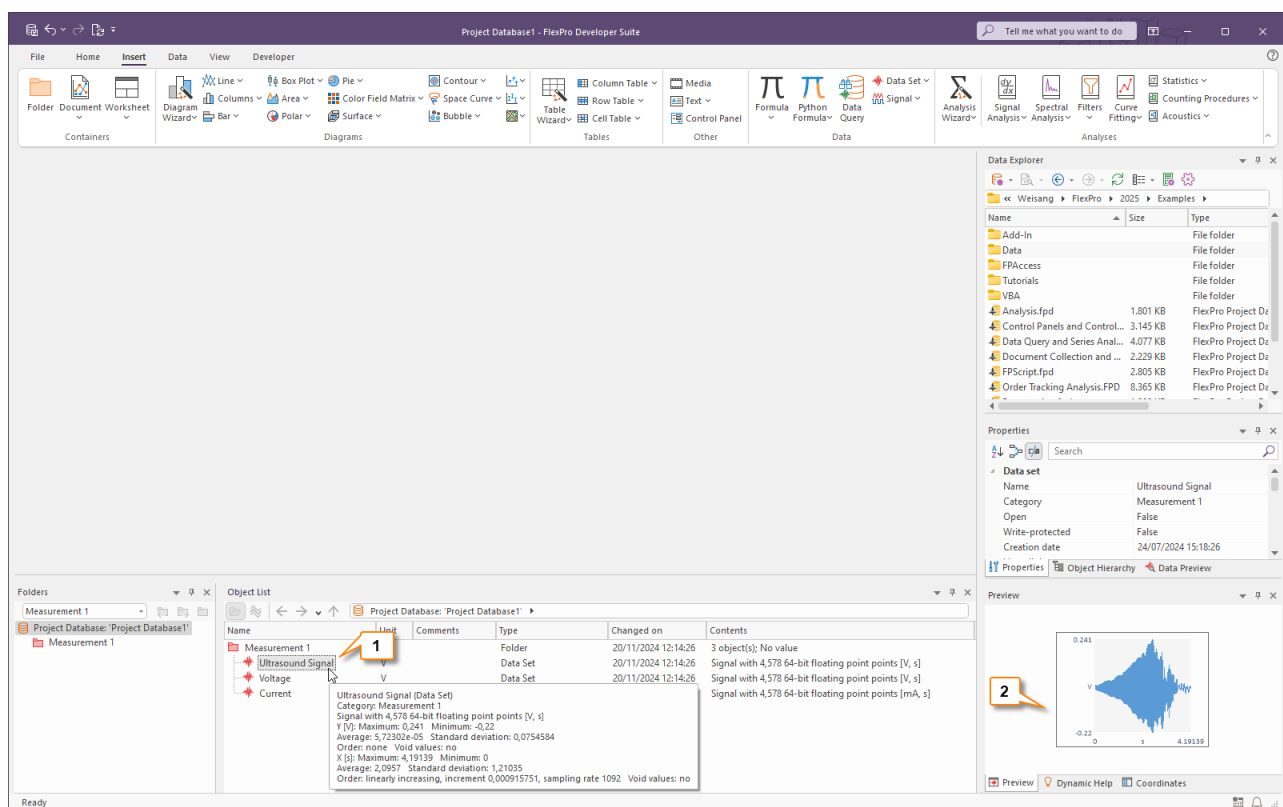
Select an action: Edit units

Imported Unit	Recognized As	Replace With	Interpreted As	Physical Quantity
✓ V	Volt	V	Volt	
✓ s	second	s	second	
✓ mA	milliampere	mA	milliampere	

Open Custom Units Table Save changes: In this database

Close

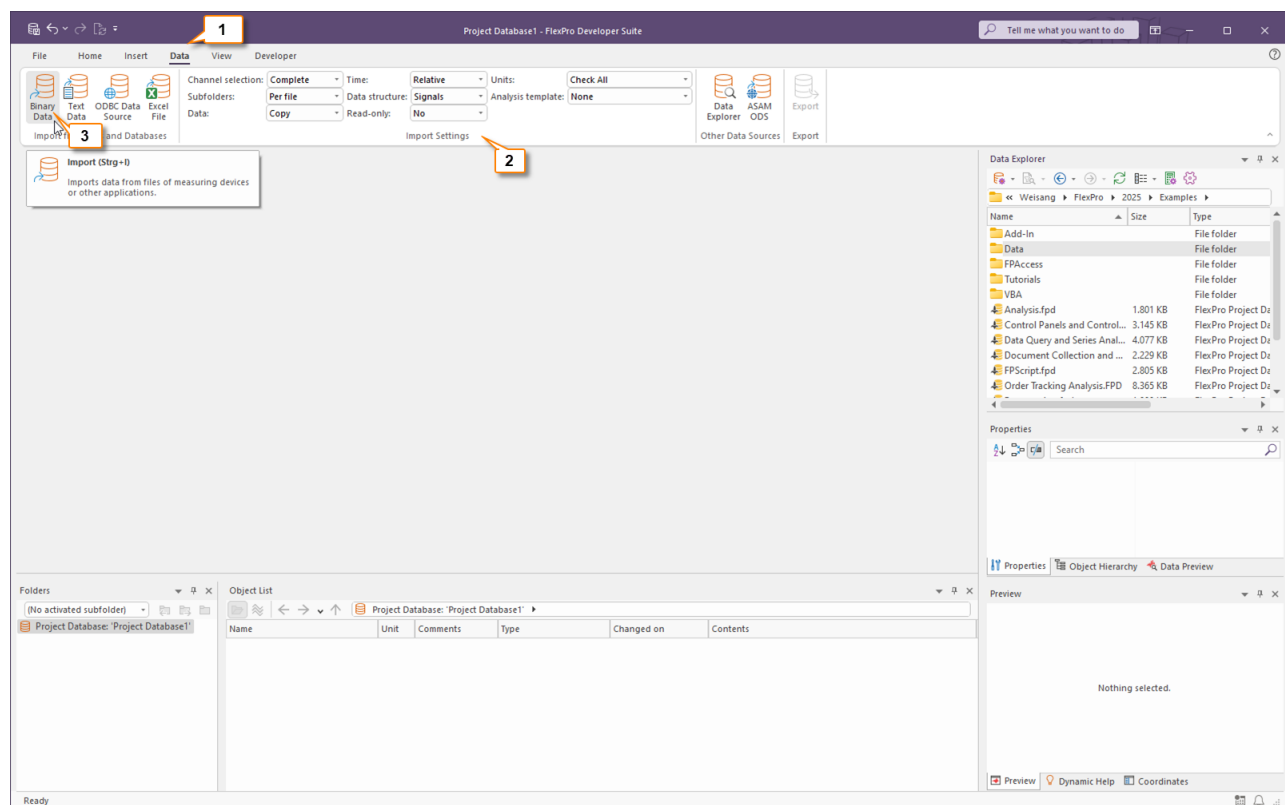
単位の検証 ダイアログボックスには、インポートされる全ての単位が表示されます。
で変換 列には、全ての単位が正しくインポートされたことが示されています。
ダイアログボックスを閉じます。



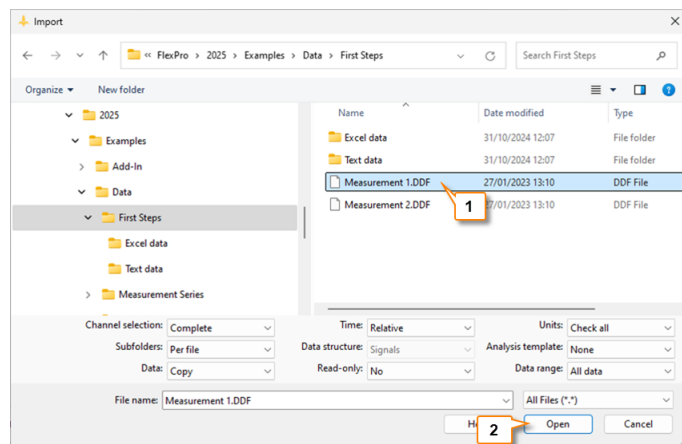
インポートしたデータをチェックするには、オブジェクトリストに作成されたデータのいずれかを選択します [1]。プレビュー内容が曲線として表示されます [2]。

次へ [ダイアグラムの作成と編集](#) [16]。

計測機器から取得したデータをインポートする



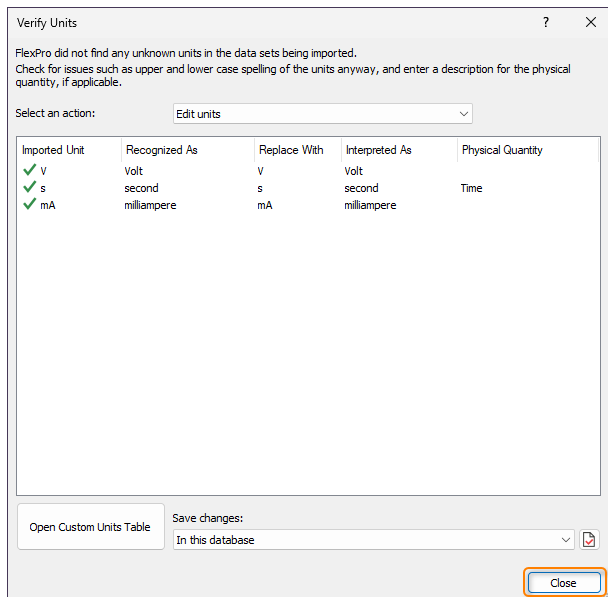
「Data」のデータタブをクリックします [1]。インポートの設定グループのオプションを図のように設定します [2]。
「ファイルやデータベースからインポート」＞「バイナリデータ」をクリックします [3]。



インポート ダイアログボックスが開きます。

次のパス C:\Users\Public\Documents\Weisang\FlexPro\<%VERSION_COMMERCIAL%> を選択するか、日本語のフォルダ名で C:\ユーザー>パブリック>パブリックのドキュメント>Weisang>FlexPro><%VERSION_COMMERCIAL%> に移動します。更に、サブフォルダ Examples\Data\First Steps に移動して Measurement 1.DDF を選択します [1]。「開く」をクリックします [2]。

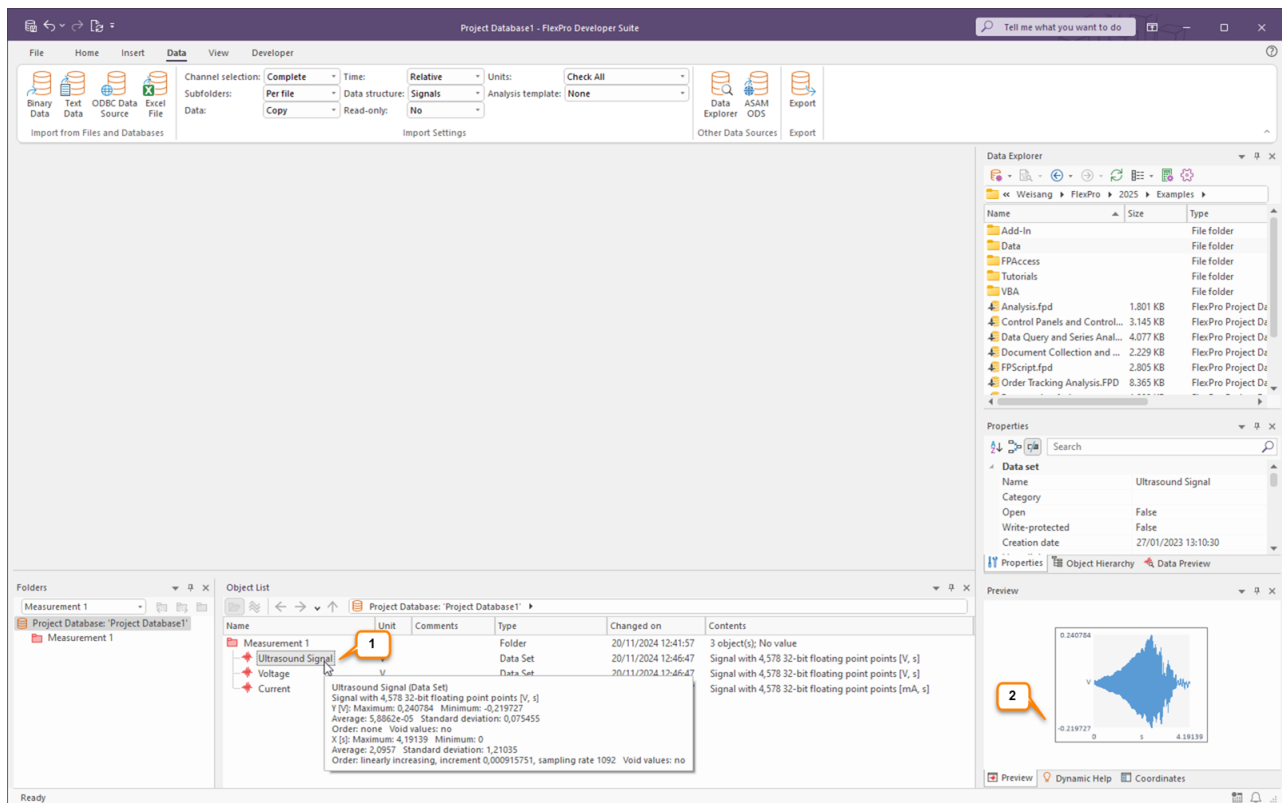
注意 ファイルタイプを展開すると、インポート可能なすべてのオプションが表示されます。



単位の検証 ダイアログボックスには、インポートされる全ての単位が表示されます。

で変換 列には、全ての単位が正しくインポートされたことが示されています。

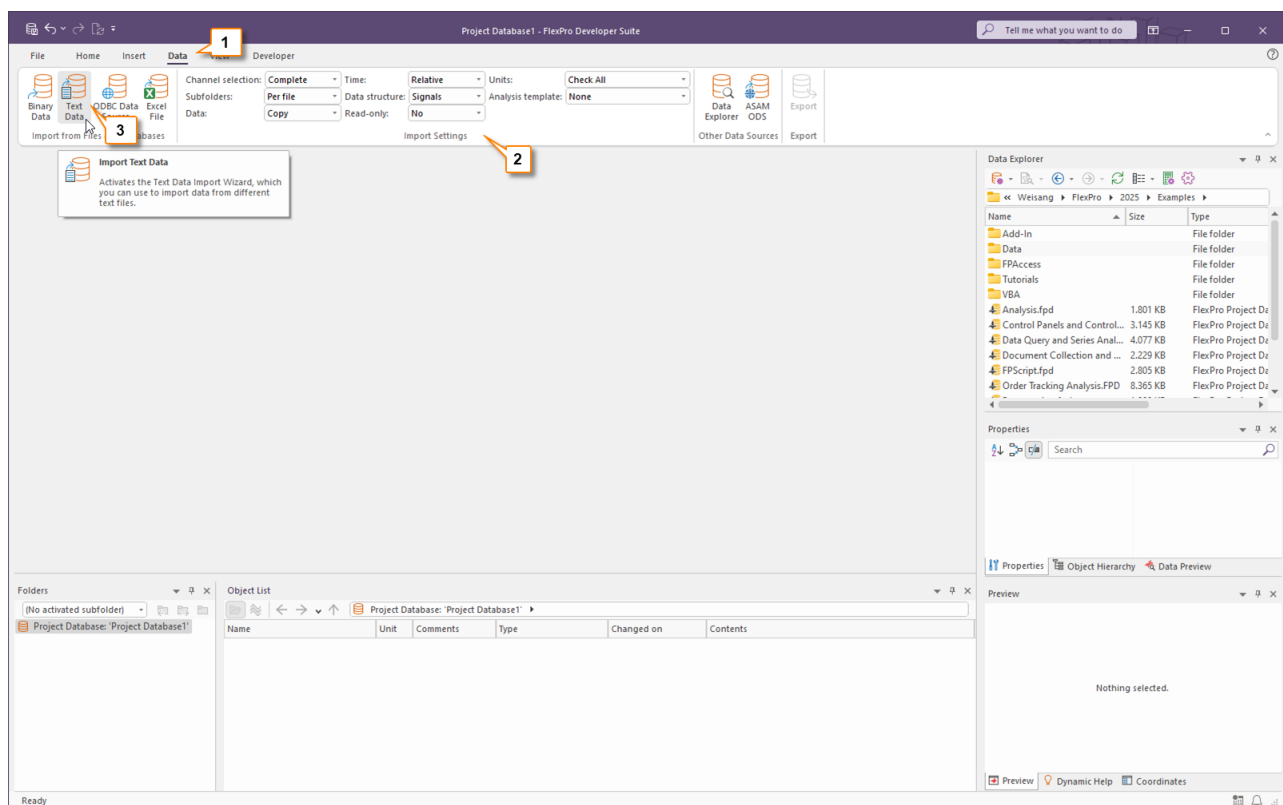
ダイアログボックスを閉じます。



インポートしたデータをチェックするには、オブジェクトリストに作成されたデータのいずれかを選択します [1]。プレビュー内容が曲線として表示されます [2]。

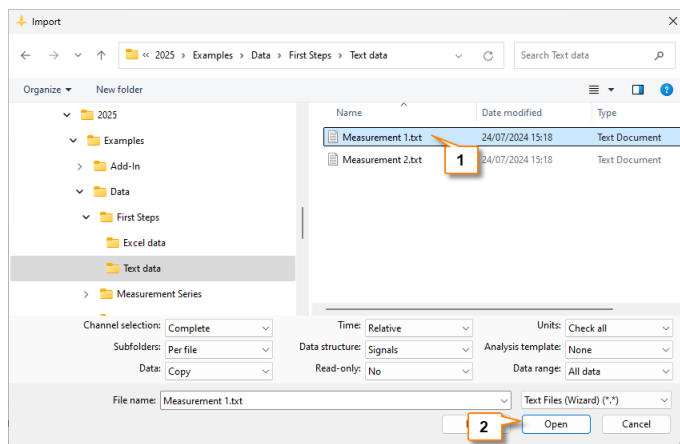
次へ [ダイアグラムの作成と編集](#) [16]。

テキストデータをインポートする



「Data」のデータタブをクリックします [1]。インポートの設定のオプションを図のように設定します [2]。

「ファイル/データベースからインポート」> テキストデータををクリックします [3]。



インポート ダイアログボックスが開きます。次のパス C:\Users\Public\Documents\Weisang\FlexPro\<% VERSION_COMMERCIAL%> を選択するか、日本語のフォルダー名で C:\ユーザー\パブリック\パブリックドキュメント > Weisang\FlexPro > <% VERSION_COMMERCIAL%> に移動します。更に サブフォルダ Examples\Data\First Steps\Text data に移動して Measurement 1.txt を選択します [1]。「開く」をクリックします [2]。

Text Data Import Wizard - Step 1 of 4 - File Settings

Select saved import scheme: (no schema) File Path: C:\Users\Public\Documents\Weisang\FlexPro... Measurement 1.txt

File Data Storage

Character encoding: 1252 (ANSI - Latin 1) Orientation: Read data sets by column

Delimiter

Column delimiter: Tab Only one delimiter per column

Decimal symbol: Point

Data Range

Data range from line 7 to (End of file)

Content:

Columns found: 4

1 (X)	2 (Y)	3 (Y)	4 (Y)
1 Engineer Taylor			
2 Device SN: 1642			
3 Frequency: 2 MHz			
4 Diameter: 24 mm			
5 Start Time: 2024-06-01 13:15:30			
6 Time s	Ultrasound Signal V	Voltage V	Current mA
7 0	0.012	0	33
8 0.0009197509	0.013	0.004	33.185
9 0.0018315018	0.01	0.008	33.371
10 0.0027472527	0.007	0.012	33.556
11 0.0036630037	0.002	0.016	33.741
12 0.0045787546	-0	0.021	33.926
13 0.0054945055	-0.004	0.025	34.112
14 0.0064102624	0.006	0.036	34.303

< Back Next > Finish Cancel

選択されたデータセットの構造はFlexProにより自動的に認識されます。データセットの構造は見つかった列に表示される値で確かめることができます [1]。「完了」をクリックします [2]。

注意 お持ちのデータをインポートする場合、ウィザードの次のページに表示されるデータを正しく解釈するための設定が必要になる場合があります。このウィザードで設定した内容を保存しておけば、次回以降、同様のデータ構造を素早くインポートすることができます。これを行うには、インポートスキーマを保存 オプションをウィザードの最後のページで選択します。

Verify Units

FlexPro did not find any unknown units in the data sets being imported.
Check for issues such as upper and lower case spelling of the units anyway, and enter a description for the physical quantity, if applicable.

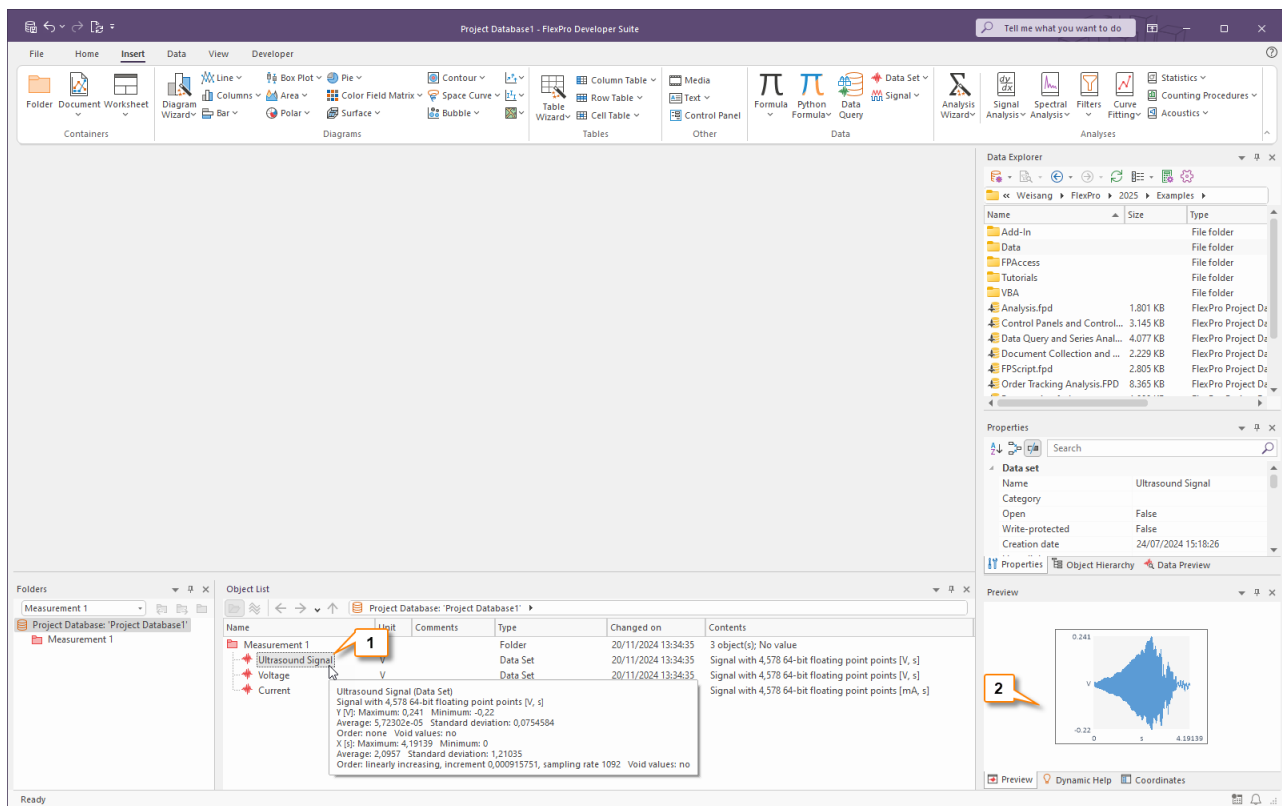
Select an action: Edit units

Imported Unit	Recognized As	Replace With	Interpreted As	Physical Quantity
✓ V	Volt	V	Volt	
✓ s	second	s	second	
✓ mA	milliampere	mA	milliampere	

Open Custom Units Table Save changes: In this database

Close

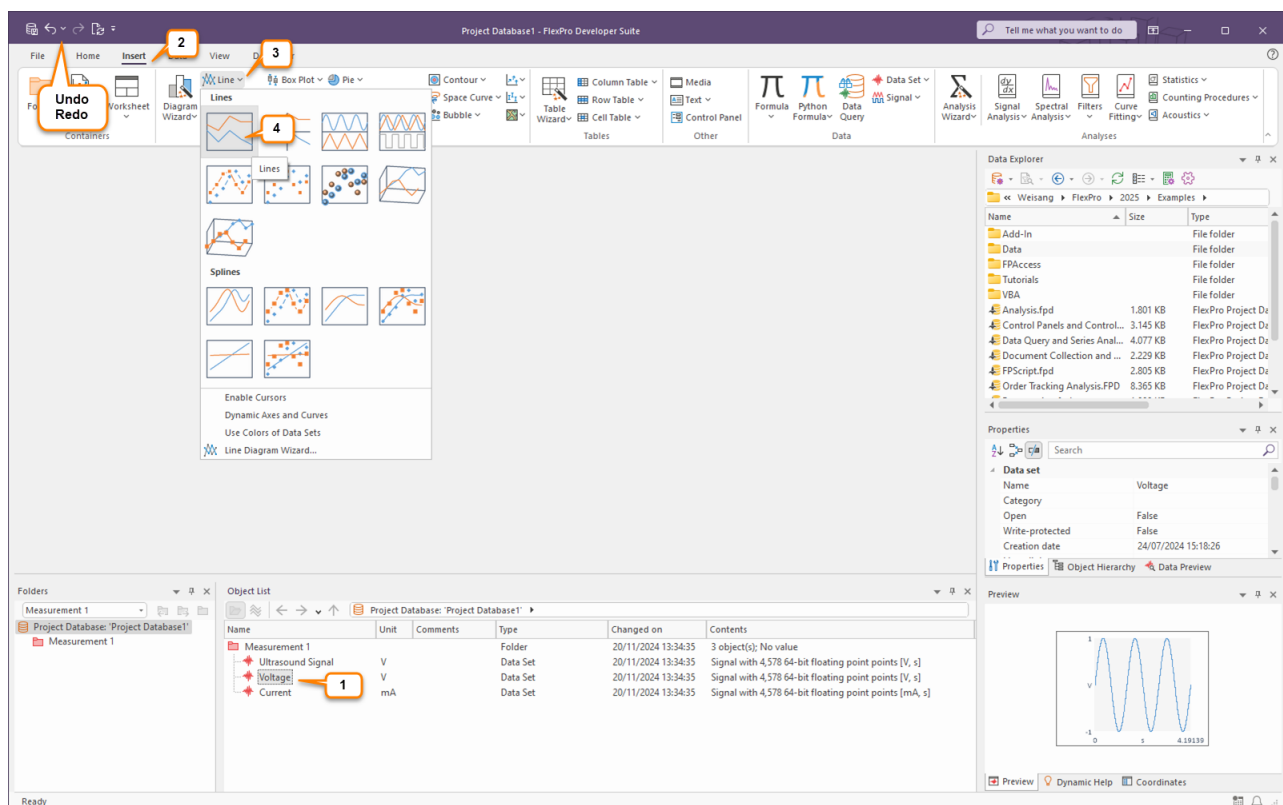
単位の検証 ダイアログボックスには、インポートされる全ての単位が表示されます。
で変換 列には、全ての単位が正しくインポートされたことが示されています。
ダイアログボックスを閉じます。



インポートしたデータをチェックするには、オブジェクトリストに作成されたデータのいずれかを選択します [1]。プレビュー内容が曲線として表示されます [2]。

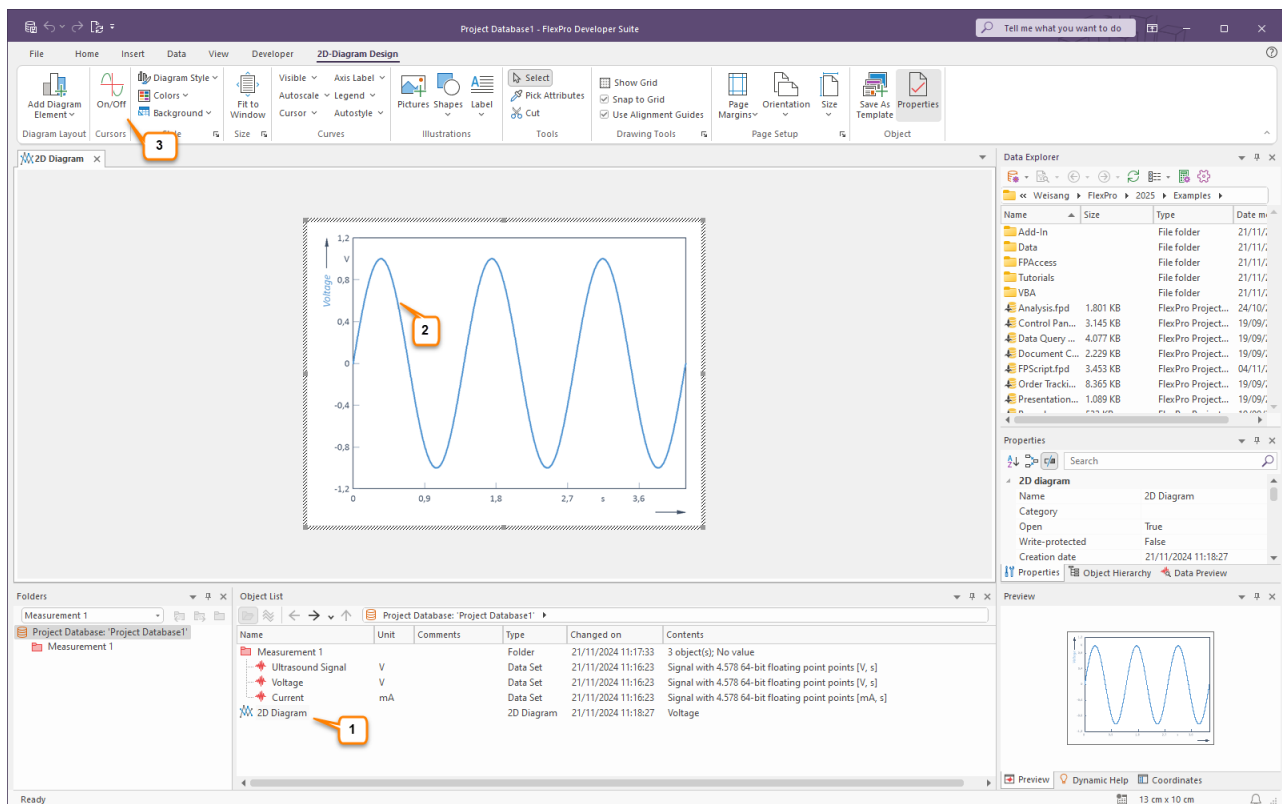
次へ [ダイアグラムの作成と編集](#) [16]。

ダイアグラムの作成と編集



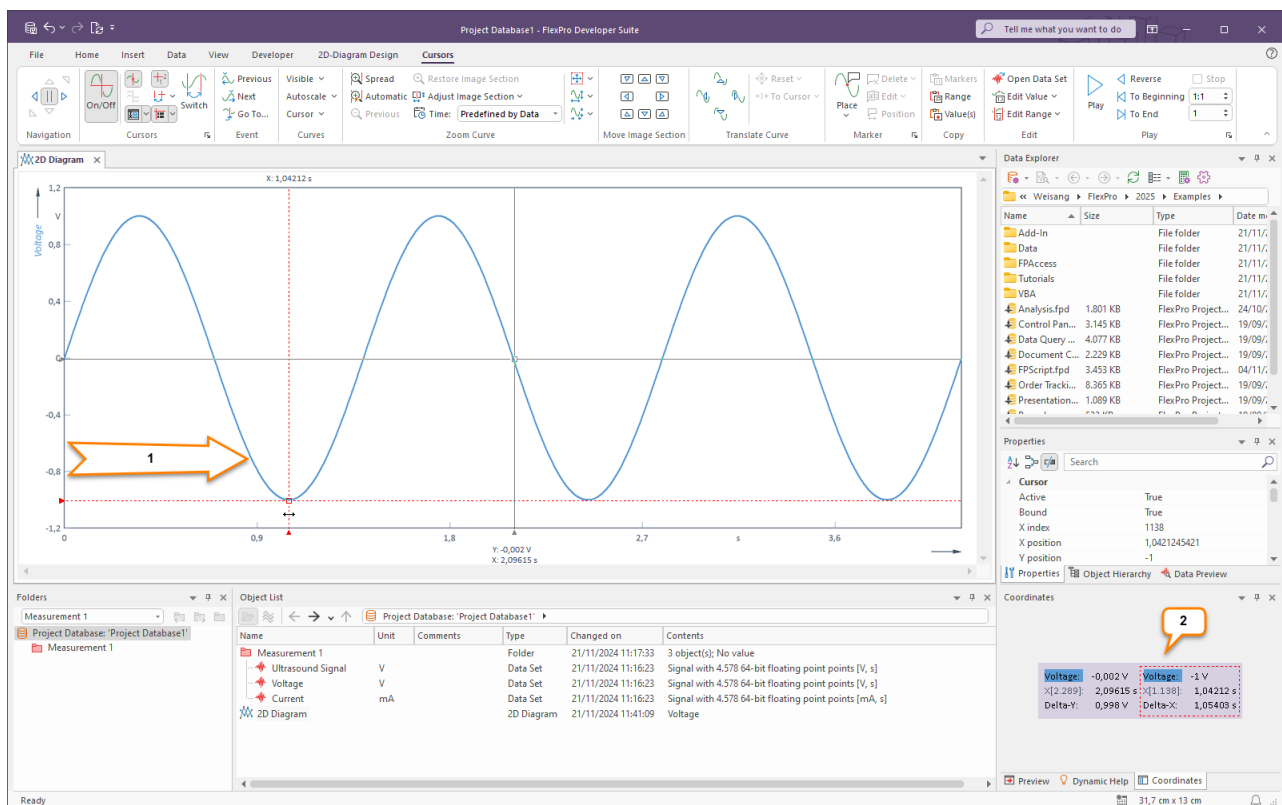
マウスの左ボタンを使用して、オブジェクトリストからデータセット Voltage を選択します[1]。リボンの挿入 タブをクリックします[2]。「ライン」メニューから[3]、「折れ線」を選択します[4]。

注意: FlexPro で行ったステップは、いつでもアンドウで元に戻すことができます。クイックアクセスツールバーにある元に戻す/やり直し アイコンをクリックしてください。



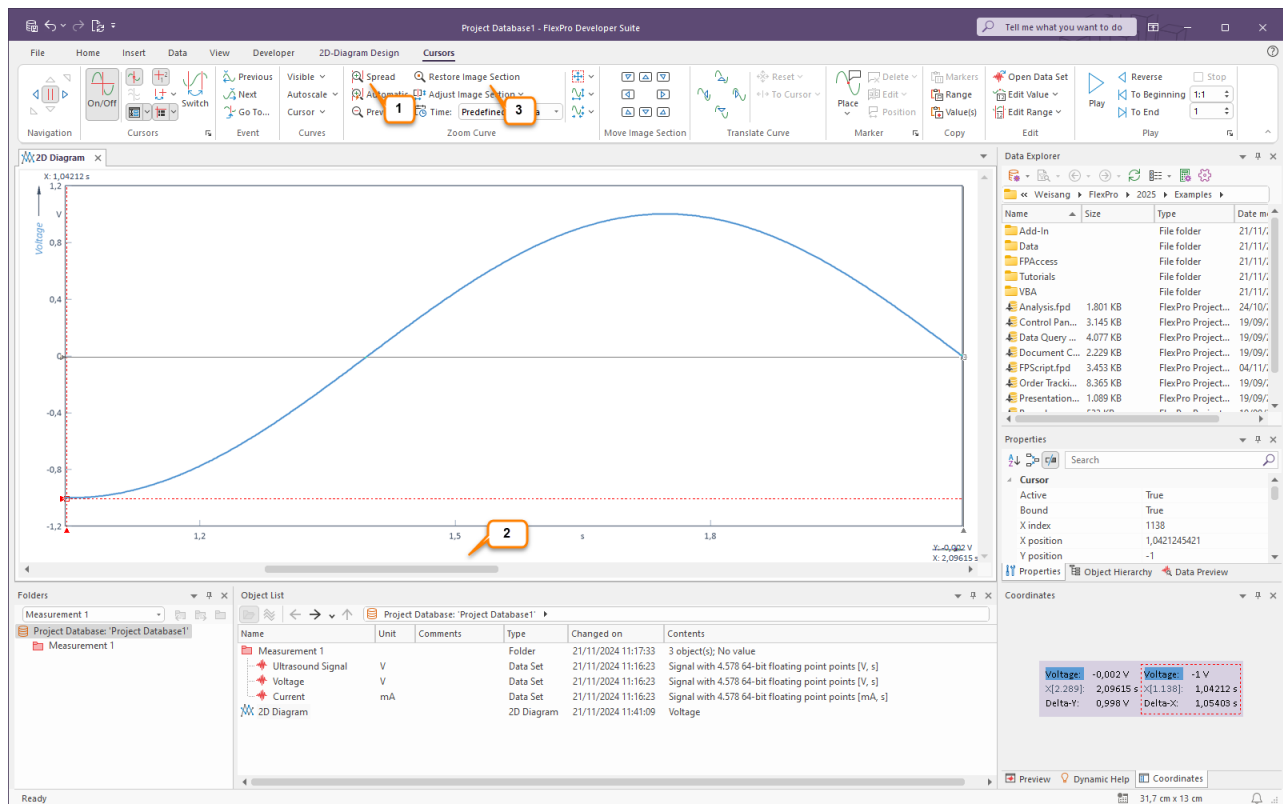
オブジェクトリストに新規ダイアグラムが追加され[1]、ワークスペースにダイアグラムが表示されます[2]。[カーソル] > オン/オフをクリックし、データカーソルを有効にします[3]。

カーソルを使ってデータセットの計測を行う



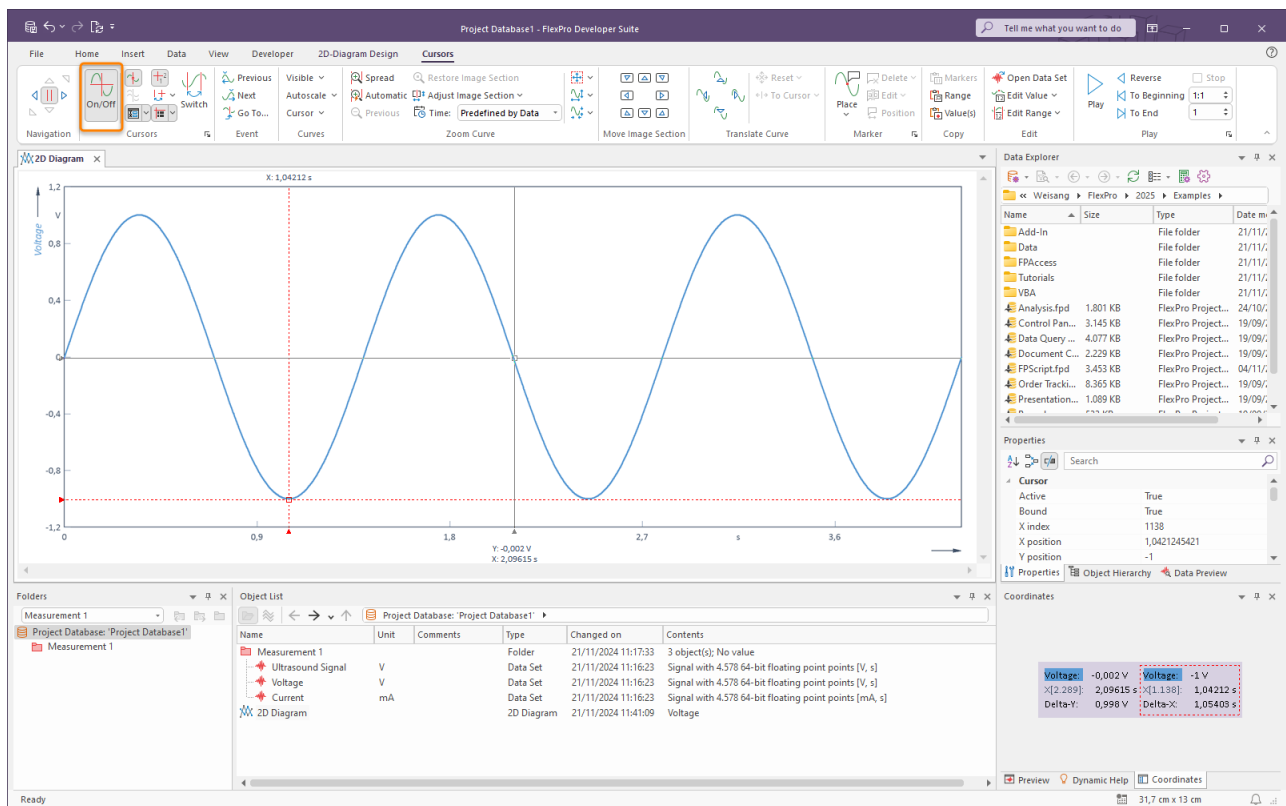
マウスポインターをY軸の左端に移動します。ここには2つのカーソルのうちの1つがあります。左右矢印が表示されます。マウスボタンを押しながら、カーソルを右側へ移動します [1]。カーソルの現在位置の値が座標ウィンドウに表示されます [2]。

ダイアグラムの曲線を拡大する

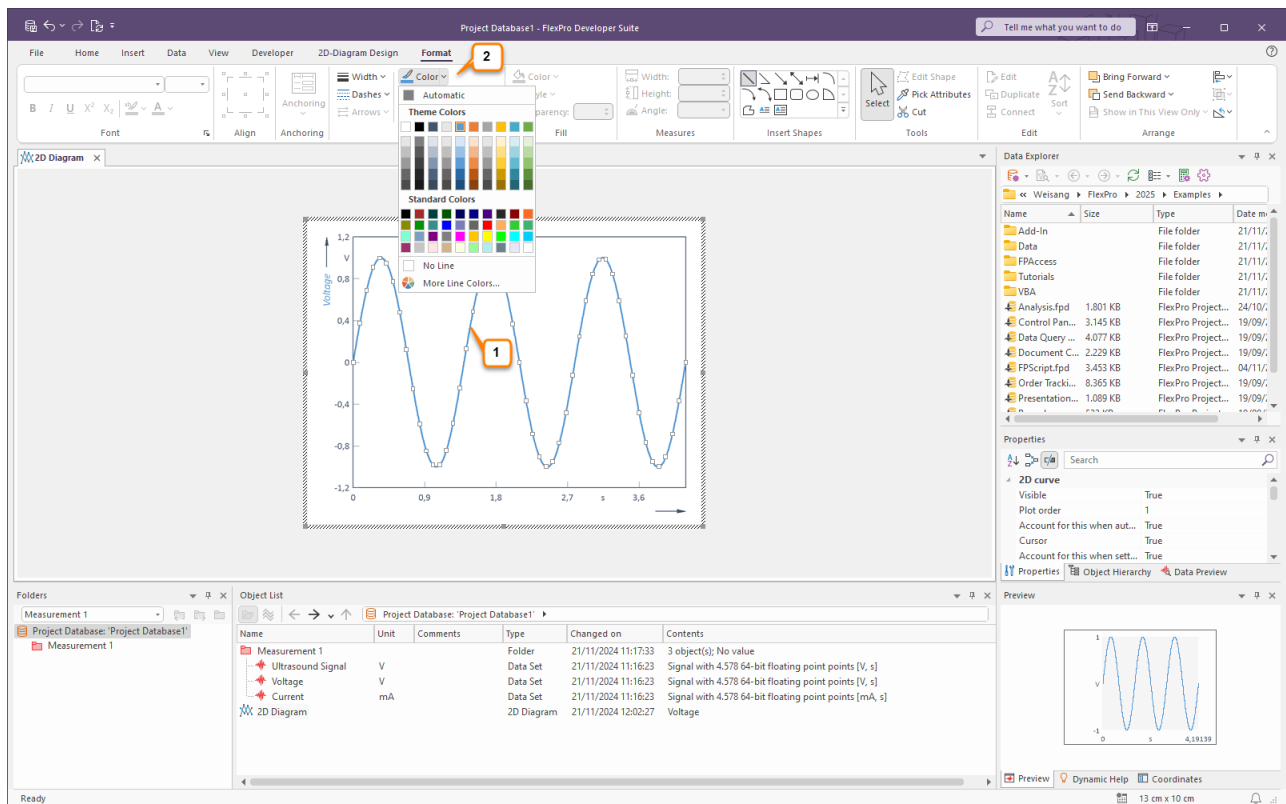


「拡大」アイコンをクリックすると [1]、2つのカーソルに挟まれた信号部分が拡大表示されます。拡大したダイアグラム内でデータセットを移動するにはスクロールバーを使います [2]。

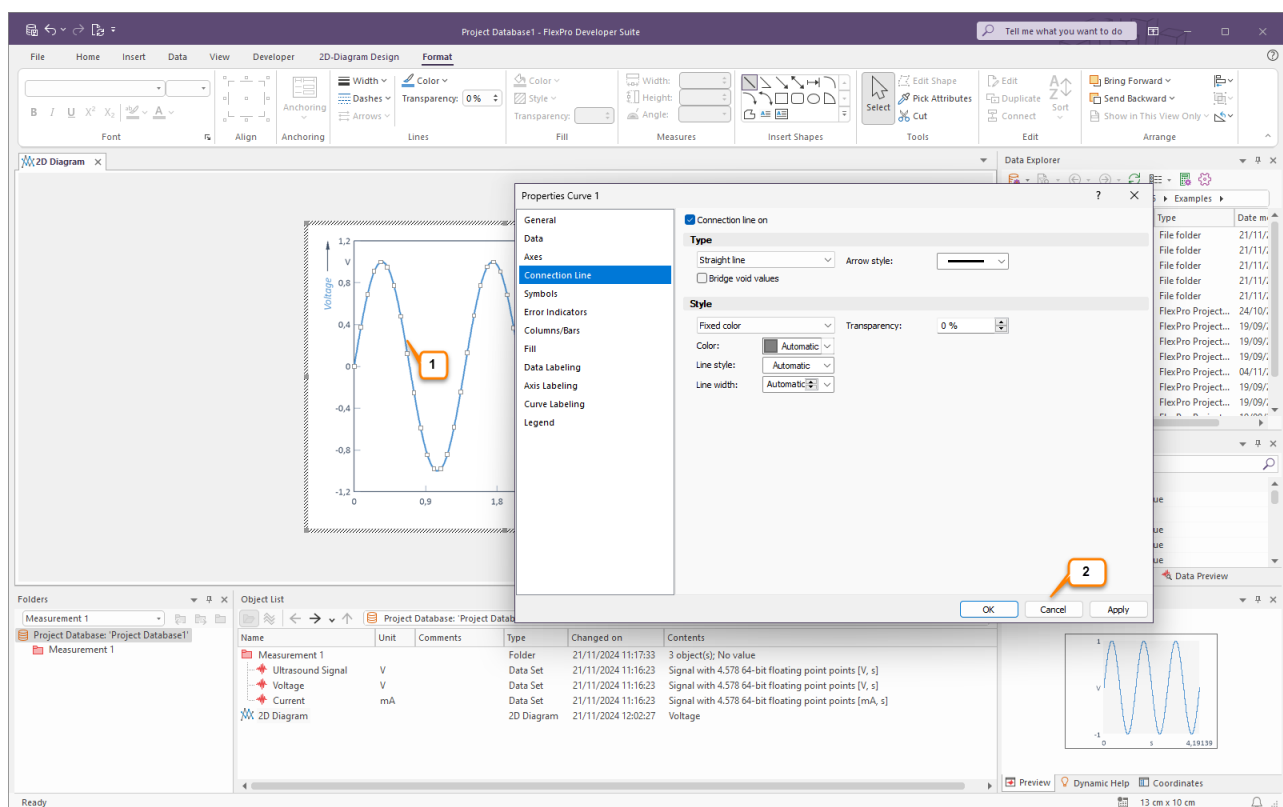
「画像セクションの復元」アイコンを使えば [3]、全てのズーム操作をワンステップで元に戻すことができます。



ここで、カーソルを一旦オフしてダイアグラムの編集を行います。「カーソル」> オン/オフをクリックしてください。



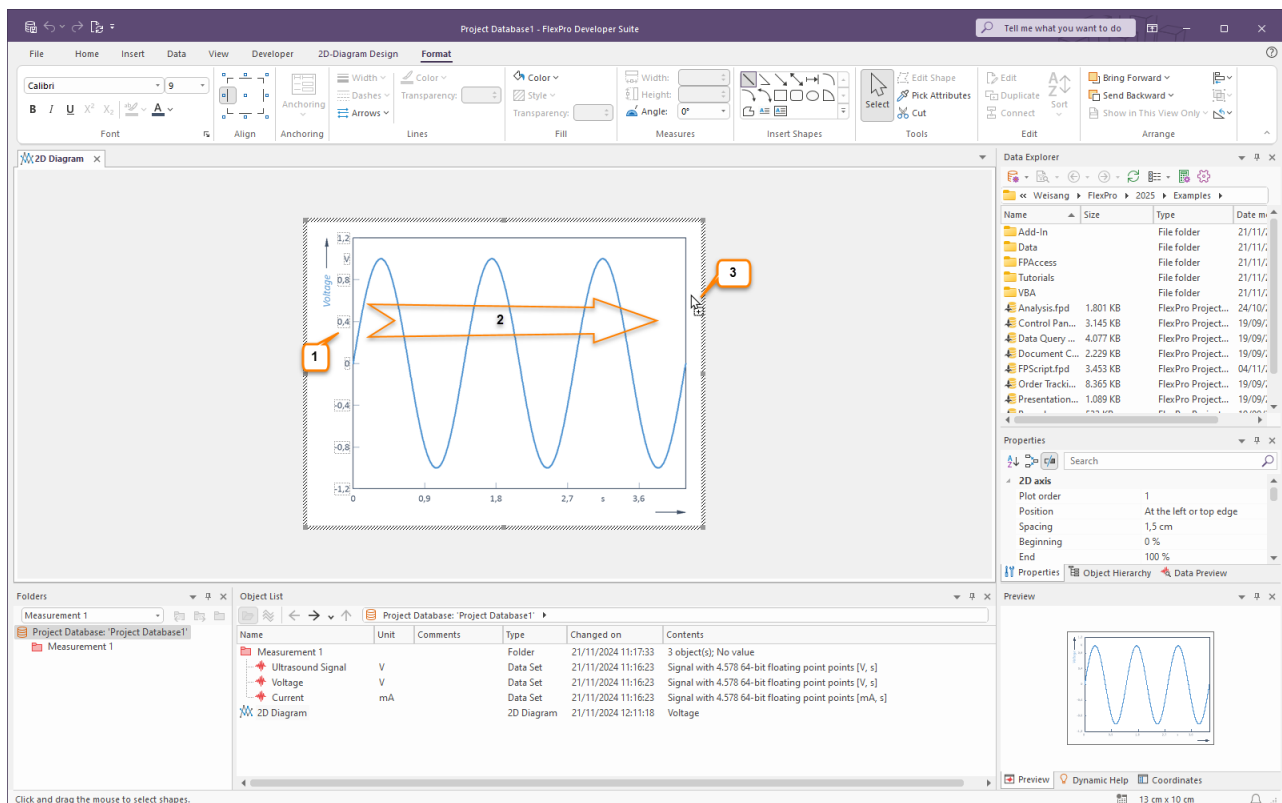
ダイアグラム内の曲線をマウスの左ボタンで1回クリックすると、この曲線が選択され編集可能な状態になります[1]。例えば「線の色」メニューを使用して[2]、曲線の色を変更できるようになります。



選択状態の曲線をマウスの左ボタンでダブルクリックすると[1]、この曲線のプロパティダイアログボックスが開きます。この曲線に追加変更内容は、全てこのダイアログボックスに表示されます。ここで「キャンセル」をクリックして[2]、プロパティダイアログボックスを閉じます。

注意: ダイアグラムのすべての要素(軸、スケール等)はダブルクリックすることで、その要素に関連するプロパティダイアログボックスが自動的に表示され、各種設定に変更を加えることができます。

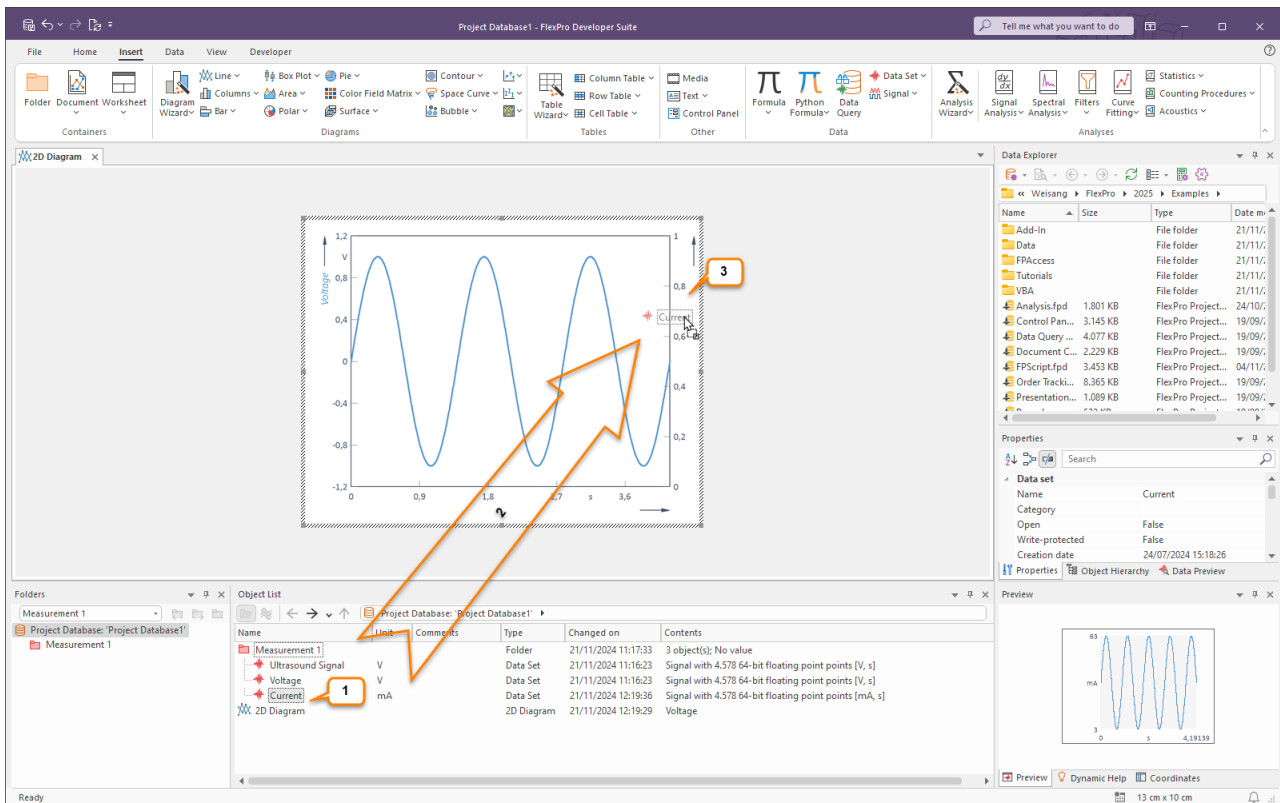
Y 軸をもうひとつ作成する



マウスの左ボタンを使用して、Y 軸目盛りをクリックします。数値が選択状態となり、ハイライトが表示されます [1]。

Y 軸のいずれかの数字にマウスポインターを移動します。例えば 0.4 をクリックして、マウスの左ボタンを押し続けます。ここで CTRL キーと一緒に押します。マウスポインターの形状が追加をあらわす「+」記号に変わります。この状態でマウスポインターをダイアグラムの右端の空白の位置まで移動します [2]。ここでマウスボタンを離します [3]。選択した位置に新しい軸が追加されます。次のステップでは、データセットをこの新しい軸にスケールします。

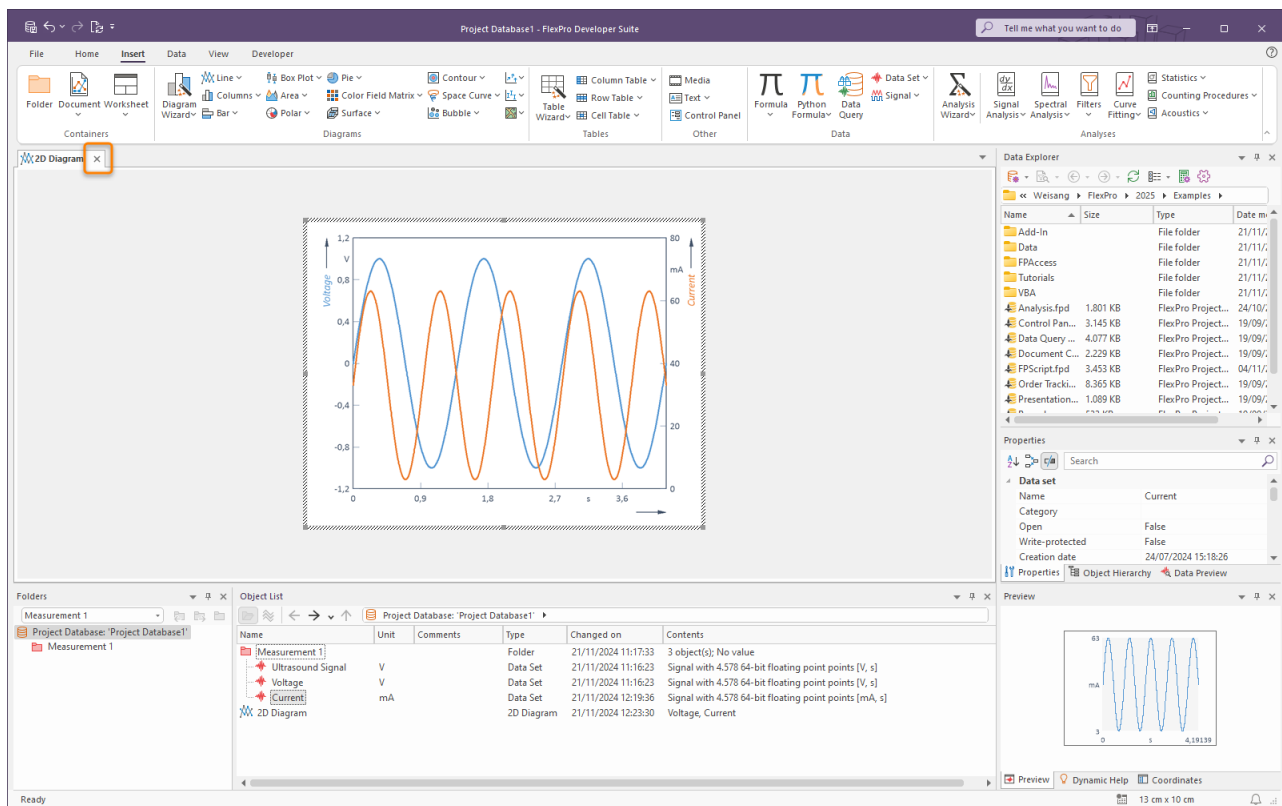
ダイアグラムに2 つ目のデータセットを追加して、新しい軸にあわせてスケーリングする



オブジェクトリストでデータセット Current をクリックします。マウスボタンを押したままにします [1]。

新たに追加した方の軸にマウスポインターを移動します [2]。マウスボタンを離します [3]。Current データセットがダイアグラムに表示されるとともに、新たに追加した軸の範囲にあわせて自動的にスケーリングされます。

注意 もし、ドラッグ&ドロップで要素を追加したオブジェクトが別のタブにあり、そのオブジェクトが見えない場合、マウスポインターをターゲットとするオブジェクトのタブ上に移動して少し待ってください。しばらくするとそのタブが前面に表示されます。



以上でこのダイアグラムに2つのデータセットが2つのY軸に表示されました。ウィンドウタブの閉じるアイコンをクリックしてこのダイアグラムを閉じてください。

注意 オブジェクトリストで2Dダイアグラムオブジェクトをクリックします。このダイアグラムはクリップボードにコピーしたり、例えばWord文書にドラッグ&ドロップでコピーできるようになっています。

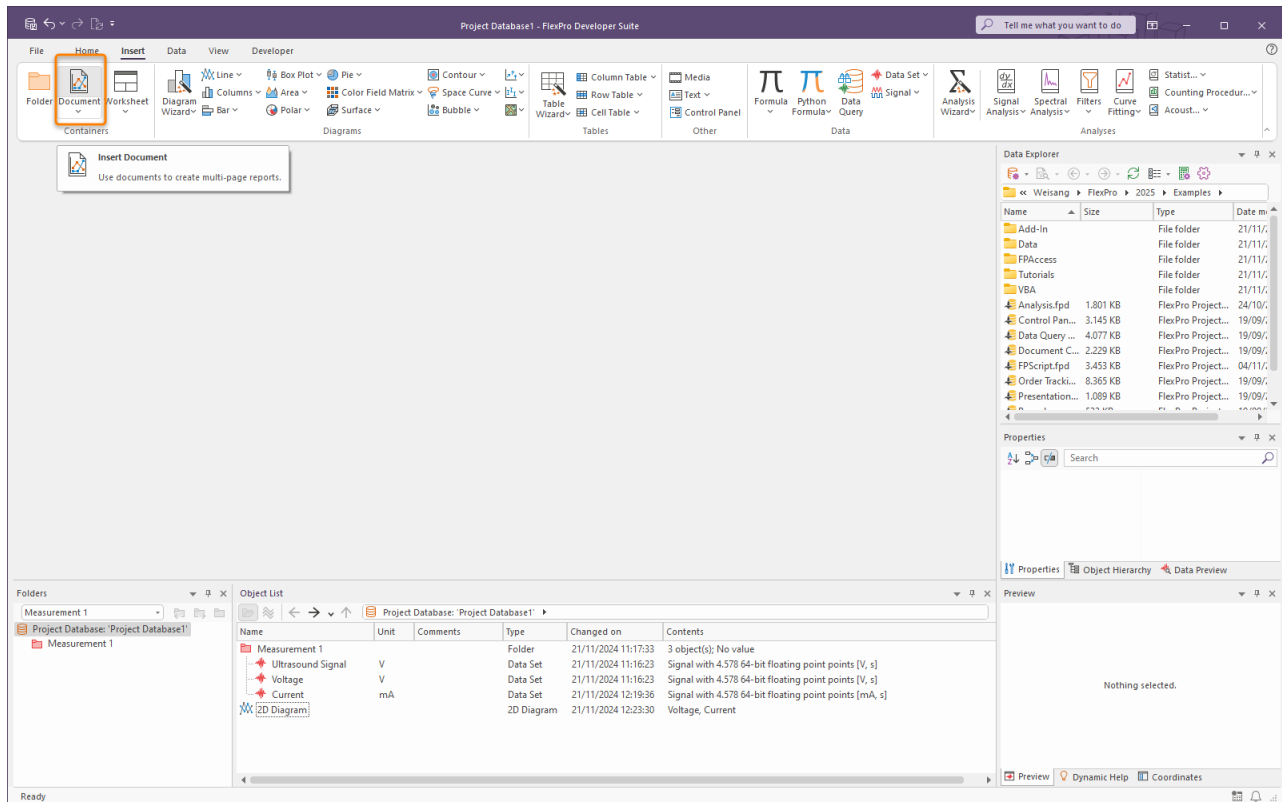
次へ [ドキュメントを作成する](#) ²⁴。

ドキュメントを作成する

ドキュメント

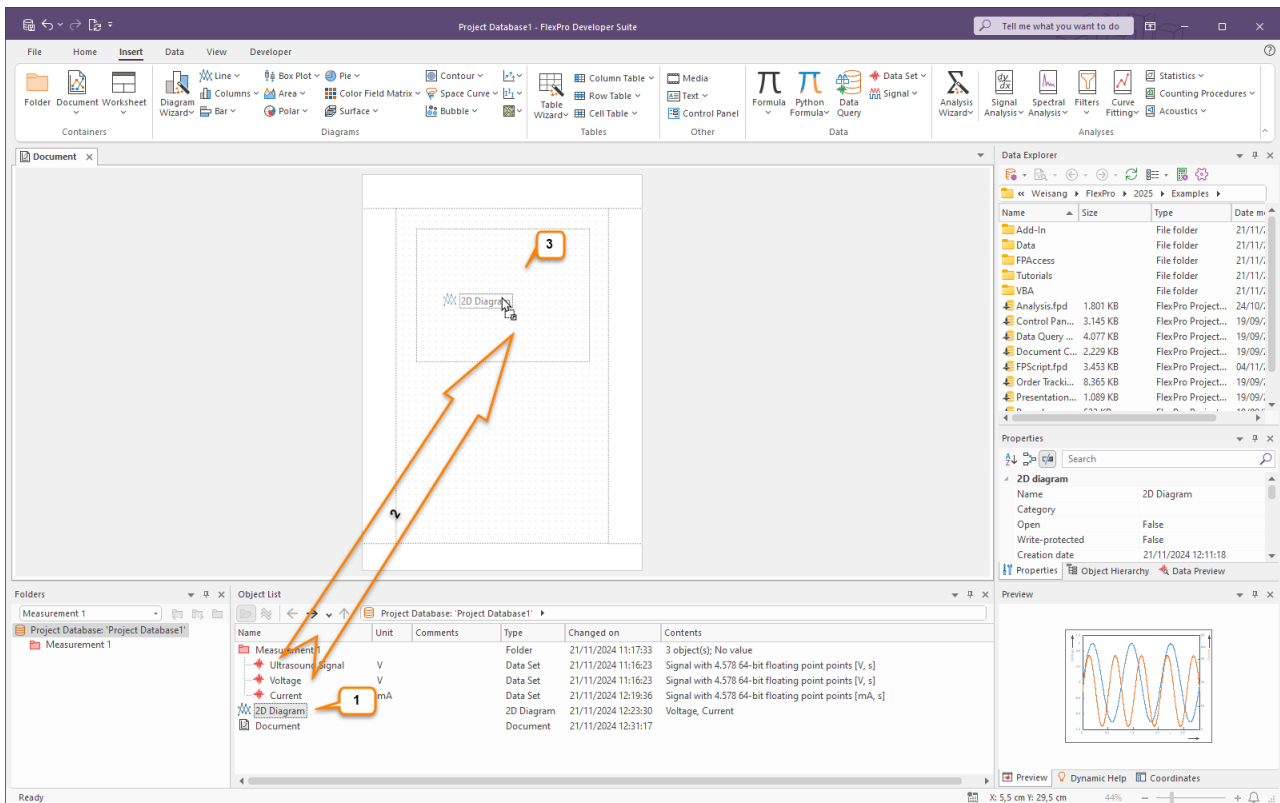
ドキュメントとは、ダイアグラムやテキストテーブルをそこに配置したり、印刷物として出力できる一枚の紙と同等の役割を担うオブジェクトのひとつです。

ドキュメントを作成する



空白のドキュメントを作成するには、挿入「コンテナ」>ドキュメント をクリックします。

ドキュメント内のダイアグラムを表示する

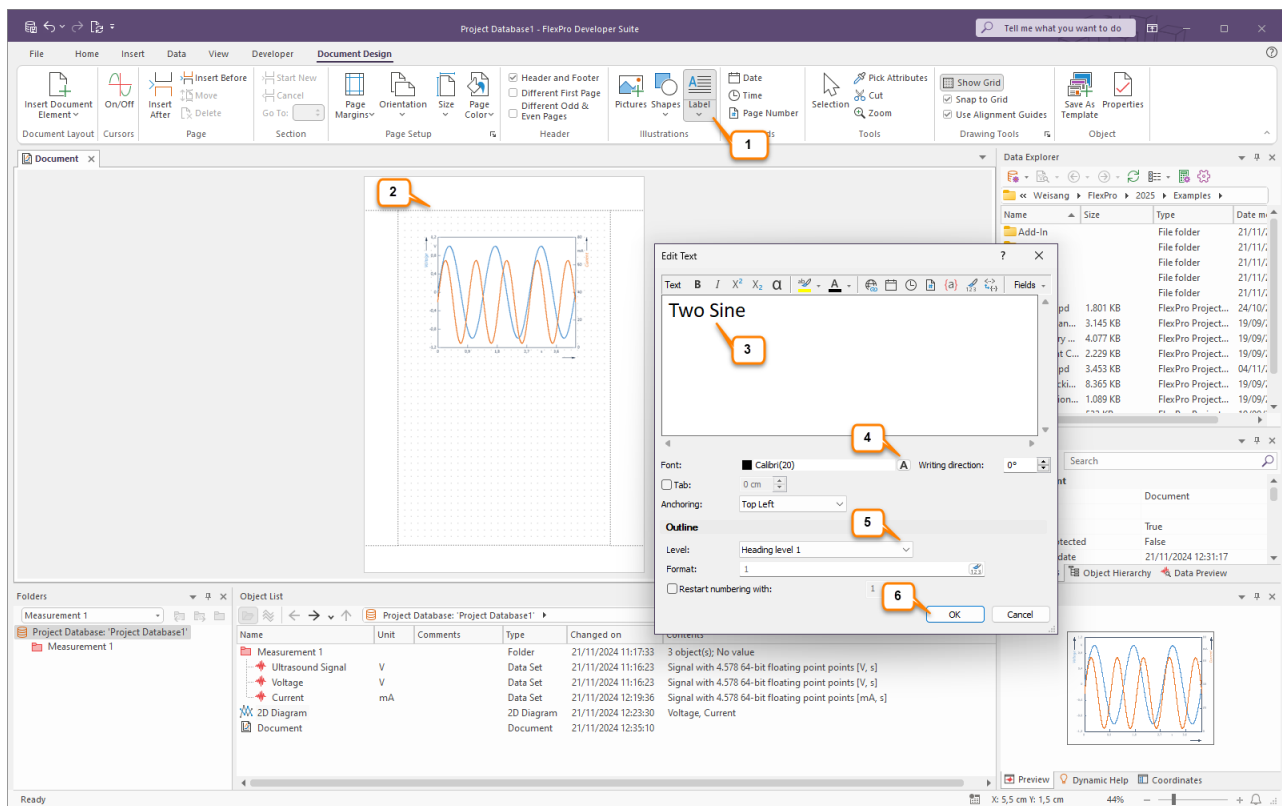


オブジェクトリストの中から適当なダイアグラム、この事例の場合は2D ダイアグラムを選択します [1]。次に、このダイアグラムをマウスの左ボタンを押しながらドキュメントにドラッグして、配置したい位置まで移動します [2]。マウスのボタンを離すと、ダイアグラムがドキュメントに表示されます [3]。

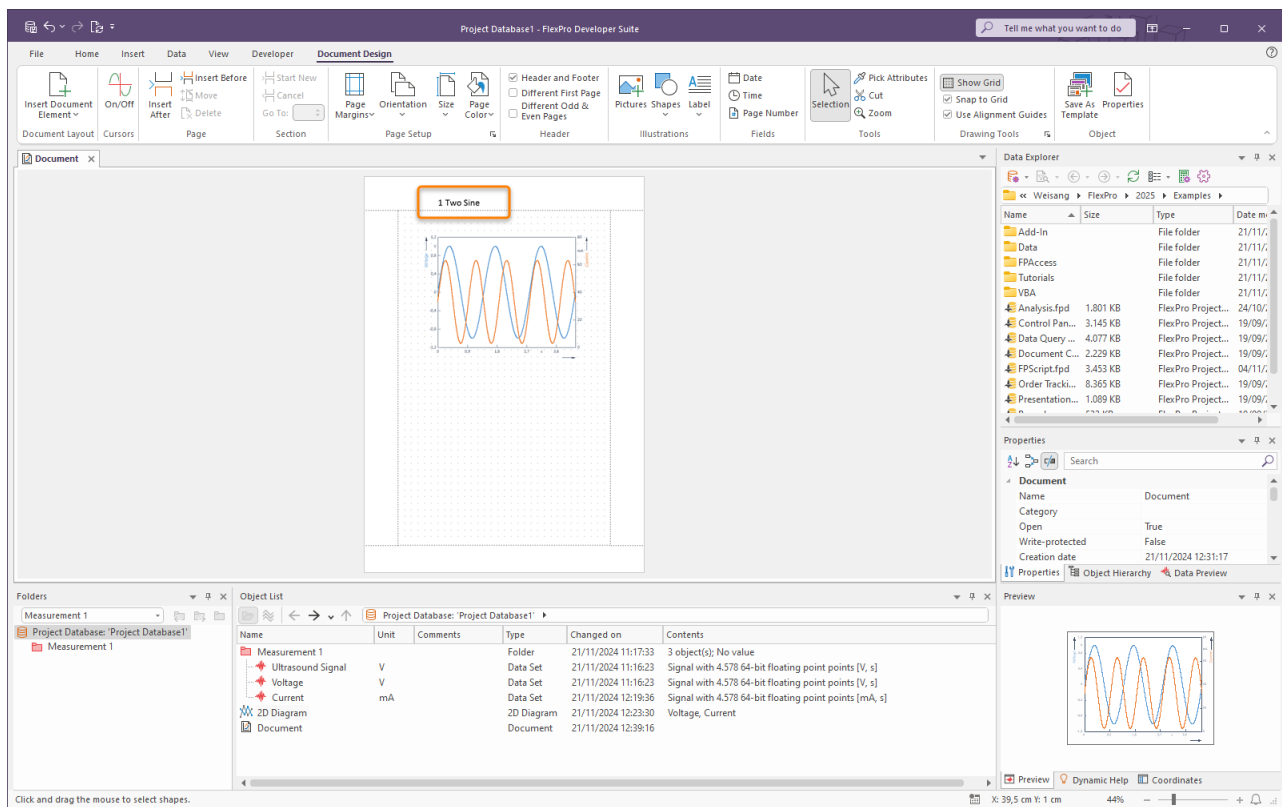
注意 この事例の場合、ドキュメントにはオブジェクトリストにあるダイアグラムへのリンクが挿入されます。このことは、マウスポインターに表示されるリンクアイコンで確認できます。ドキュメントにダイアグラム自体のコピーを挿入するには、CTRL キーとマウスボタンを同時に押す必要があります。

ドキュメントにテキスト行を挿入する

デザイン[イラスト]> ラベルをクリックして [1]、ラベルを配置したい場所にマウスポインターを移動します [2]。マウスをクリックすると、テキストの編集ダイアログボックスが表示されます。



ここに適当なテキストを入力したら[3]、フォントサイズを20に[4]、見出しレベル1に[5]設定して、OKをクリックします[6]。入力したテキストがドキュメントに表示されます。



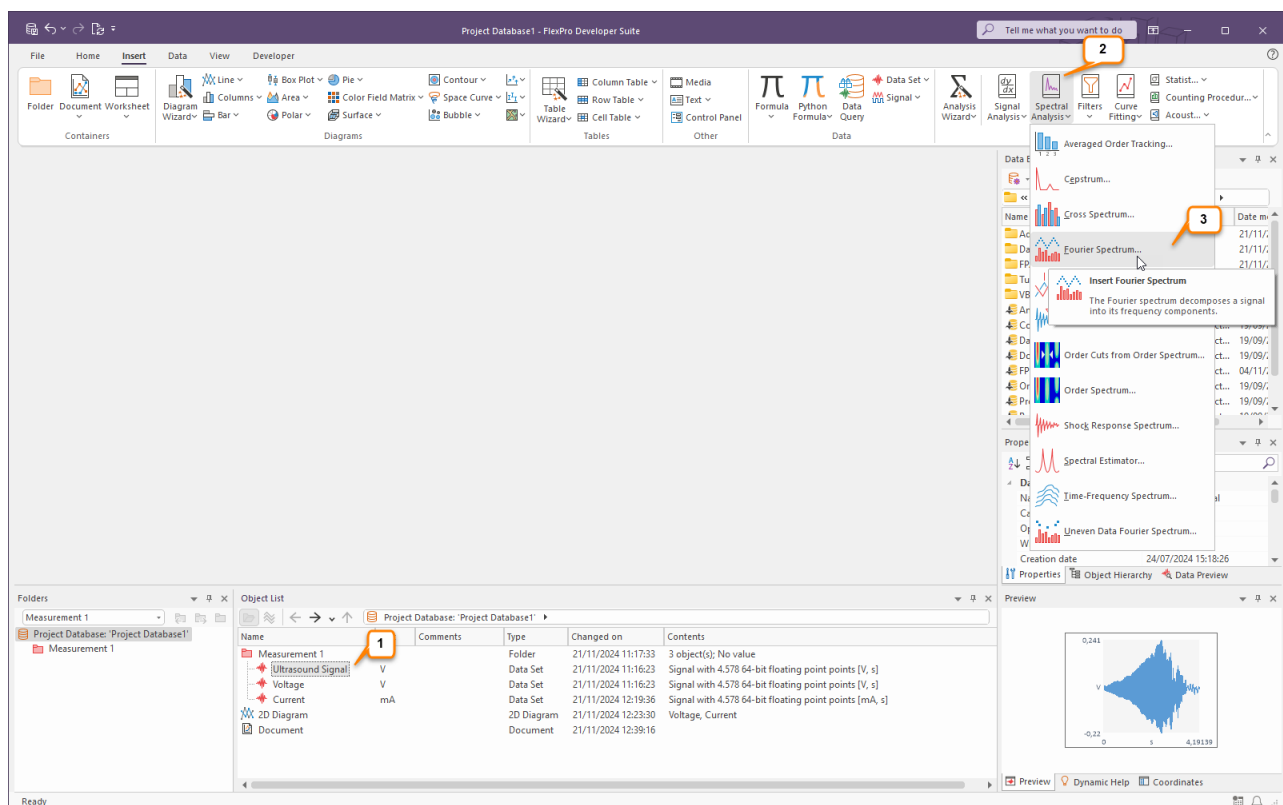
挿入したテキストは、マウスを使って移動することができます。

ここで、ドキュメントを閉じてください。

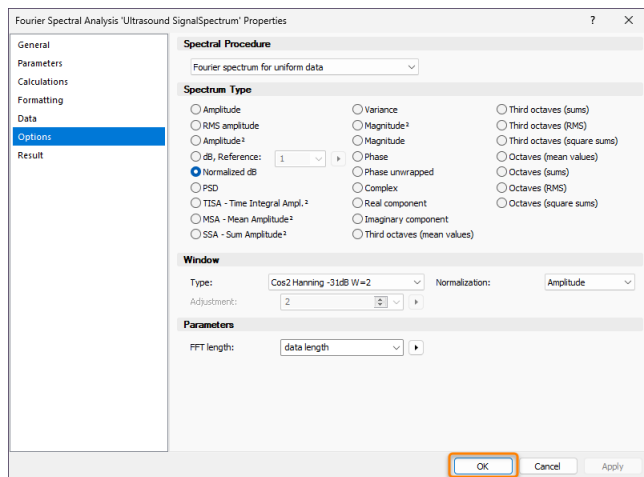
注意 ドキュメントツールの「カーソル」> オン/オフ アイコンを使用してカーソルを有効にして、ドキュメント内のダイアグラムをクリックすると、カーソルの全てのオプションをドキュメント内で利用できるようになります。また、複数ページにわたるドキュメントを作成することもできます。

[FlexPro の計算機能](#)  28。

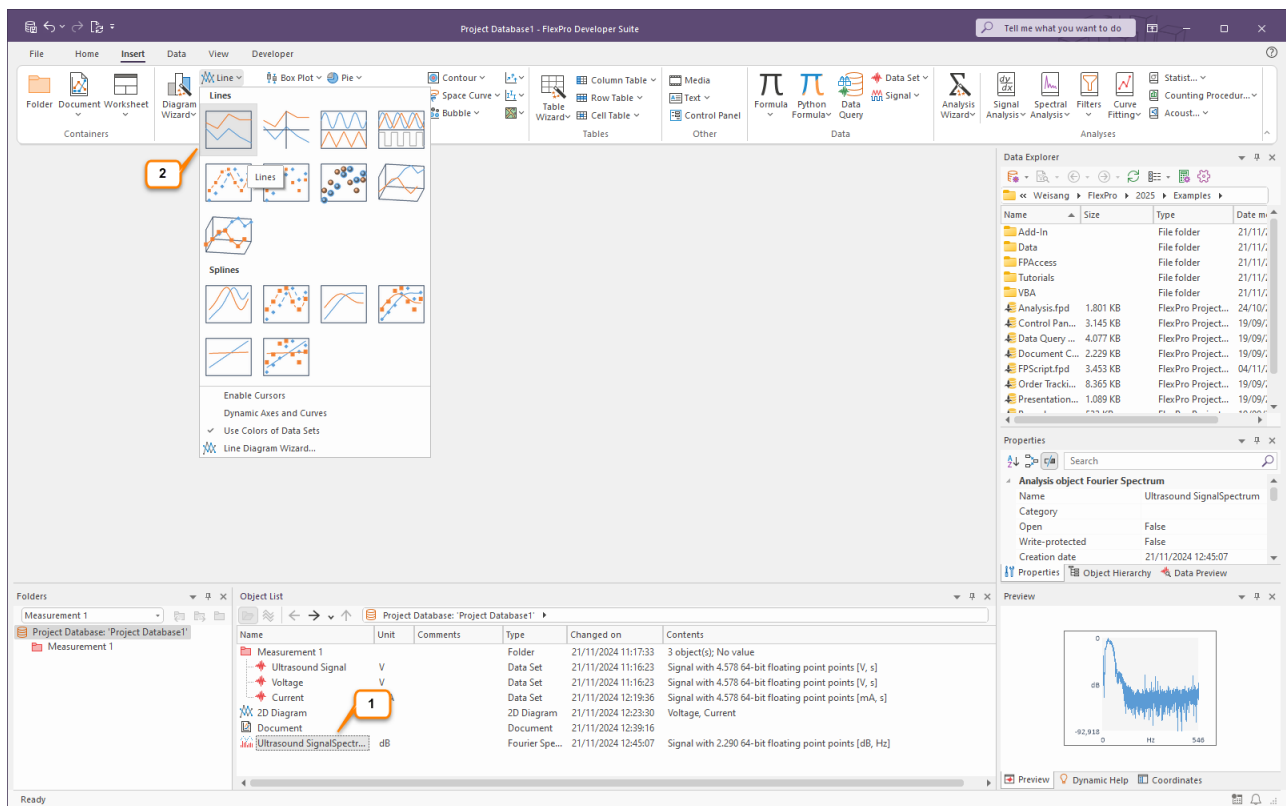
FlexPro の計算機能



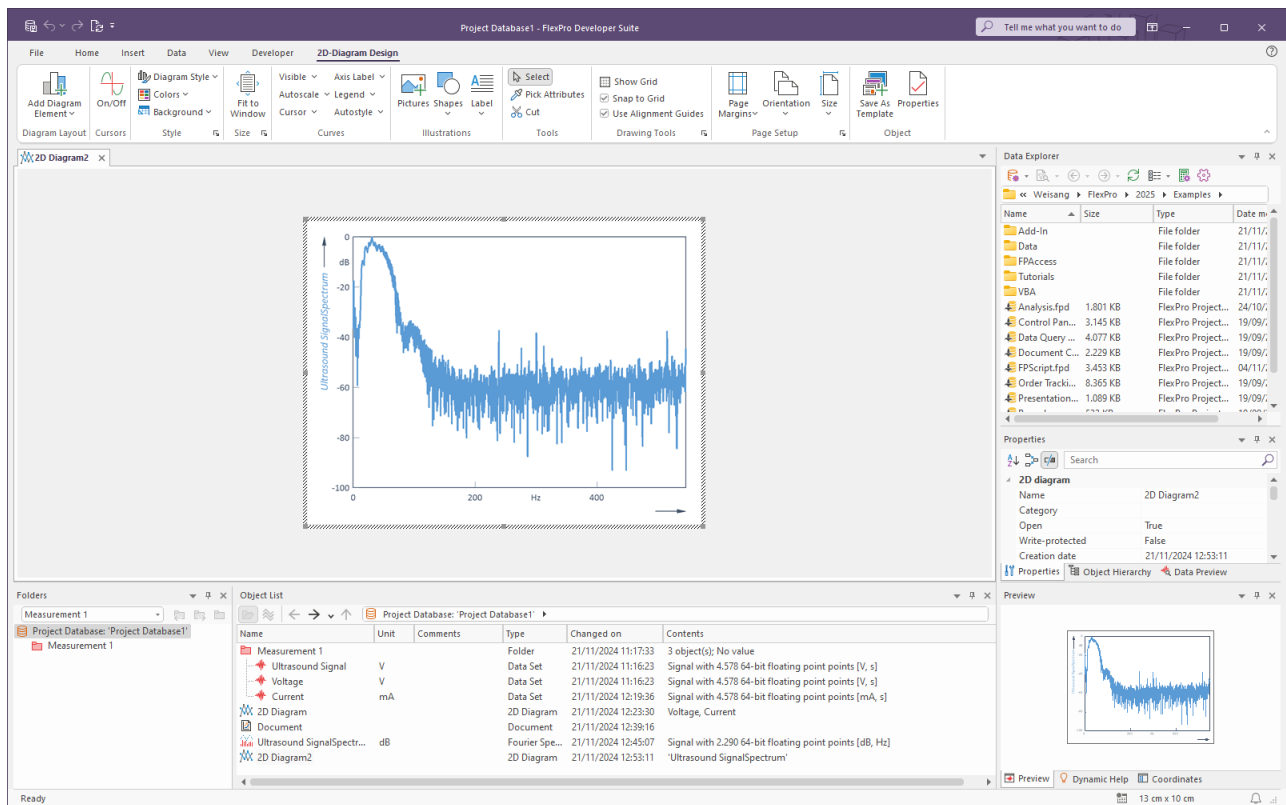
オブジェクトリストで **Ultrasound Signal** という名称のデータセットを選択します「1」。プレビューを見ると、このシグナルの形状を確認できます。次に、挿入「解析」＞スペクトル解析から「2」、フーリエスペクトルを選択します「3」。これにより、フーリエスペクトルを計算するための解析オブジェクトが作成されます。



プロパティダイアログボックスが開きます。設定内容に一切変更を加えず、**OK** をクリックしてこの画面を終了します。デフォルトの設定内容を使用したスペクトル解析がサンプルデータに対して実行されます。



オブジェクトリストを見ると、Ultrasound Signal Spectrum という名称の解析オブジェクトが追加されたのを確認できます[1]。これは Ultrasound Signal データのスペクトル解析結果であることをあらわし、他のデータセットと同様に使用することができます。計算で得られたこのスペクトルをダイアグラムで表示するには、挿入「ダイアグラム」>線>ラインを選択します[2]。

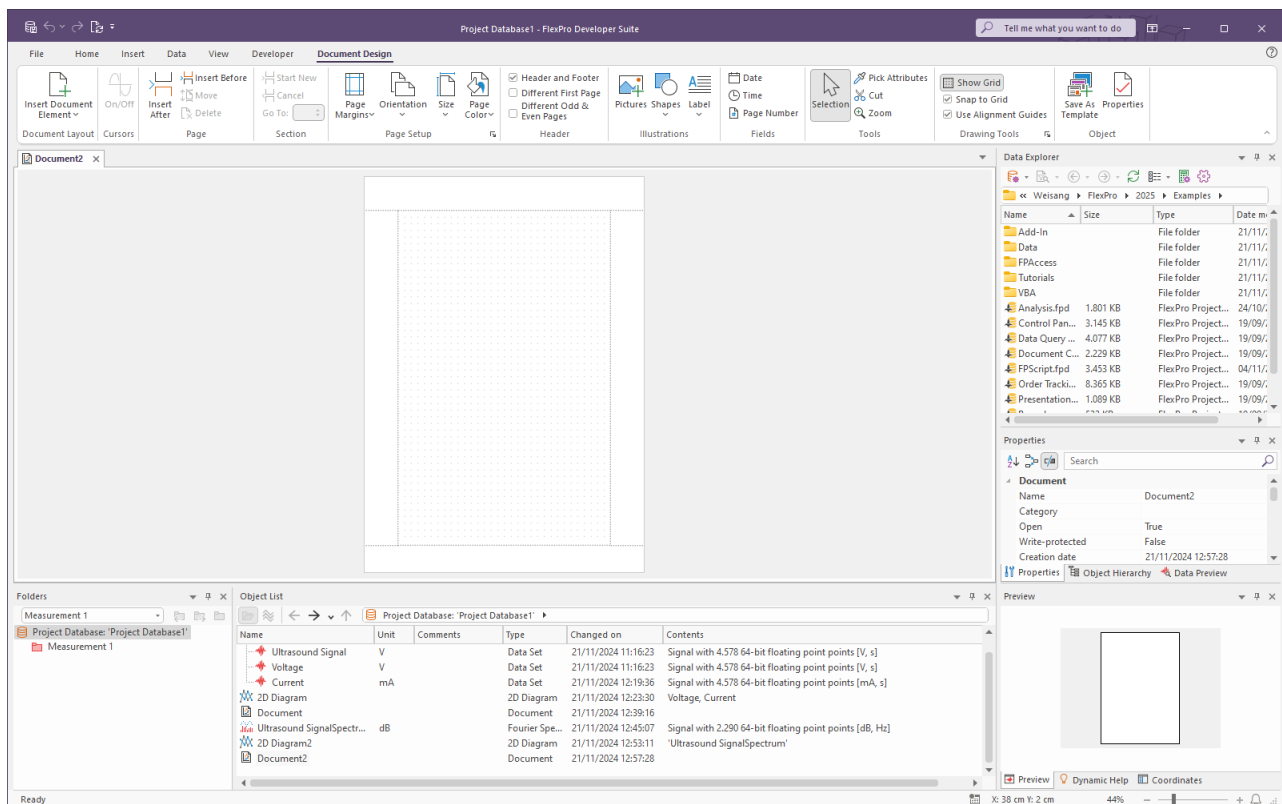


新規ウィンドウでスペクトル解析を行った新規ダイアグラムが表示されます。ここで、ダイアグラムを閉じてください。

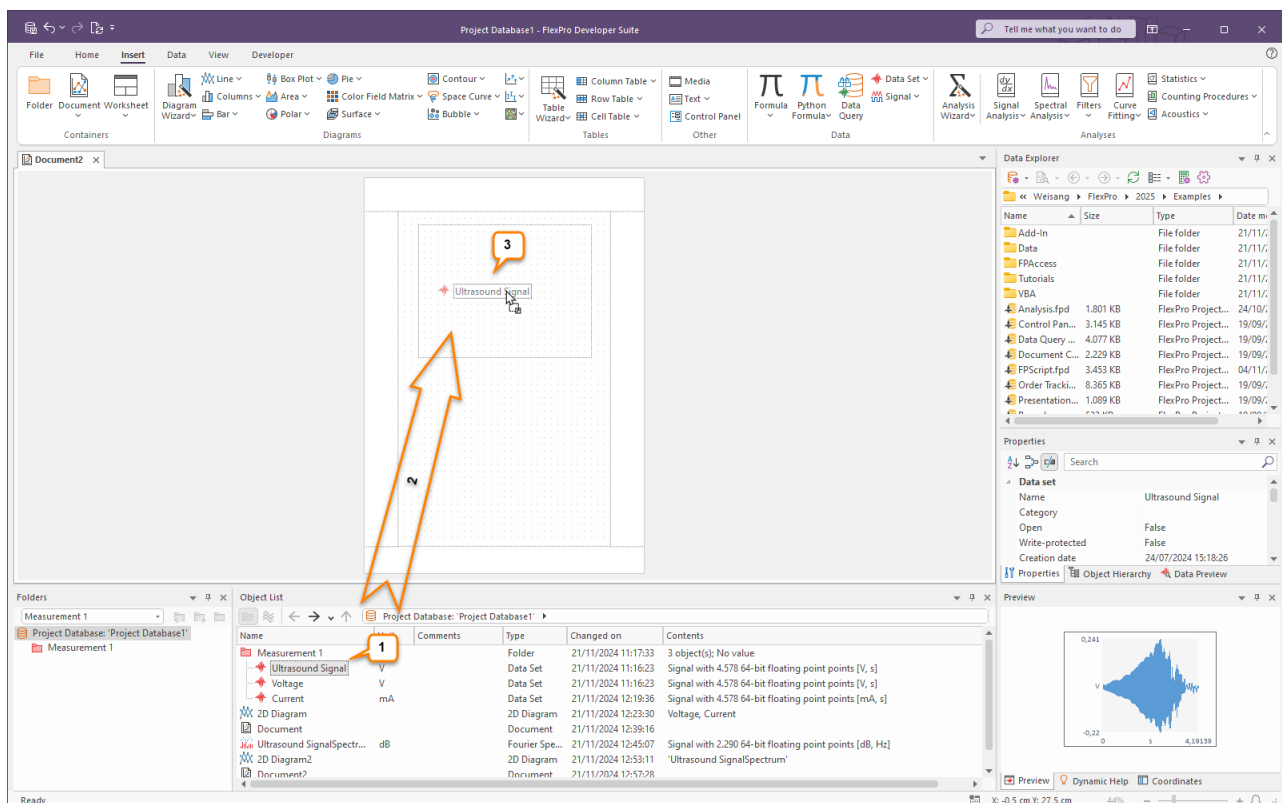
注意: FlexPro の数式として独自の計算をセットアップすることも可能です。解析ウィザードを利用すれば、一連の処理をダイアログを通じて実行できます。

次へ [データのプレゼンテーションと計算をボタンひとつで自動処理](#)  31。

データのプレゼンテーションと計算をボタンひとつで自動処理

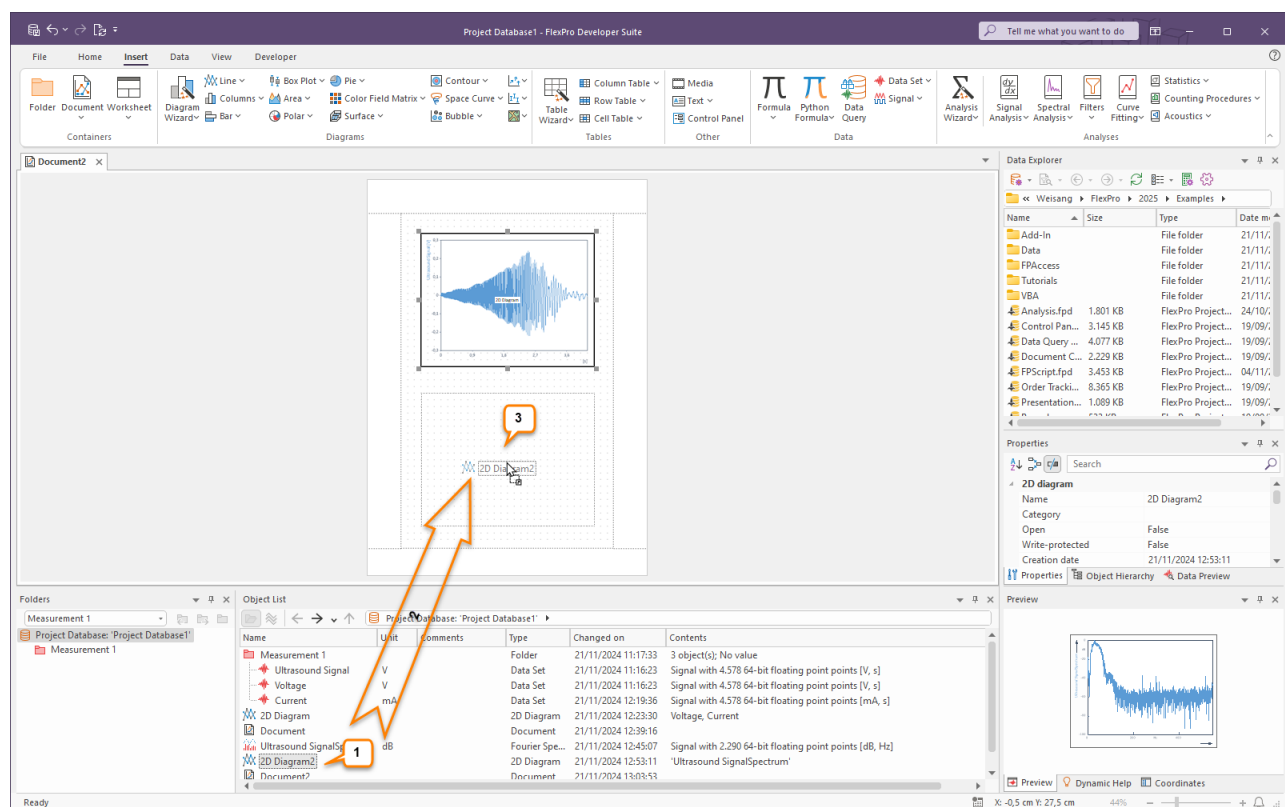


挿入「コンテナ」>ドキュメント をクリックして新規ドキュメントを用意します。

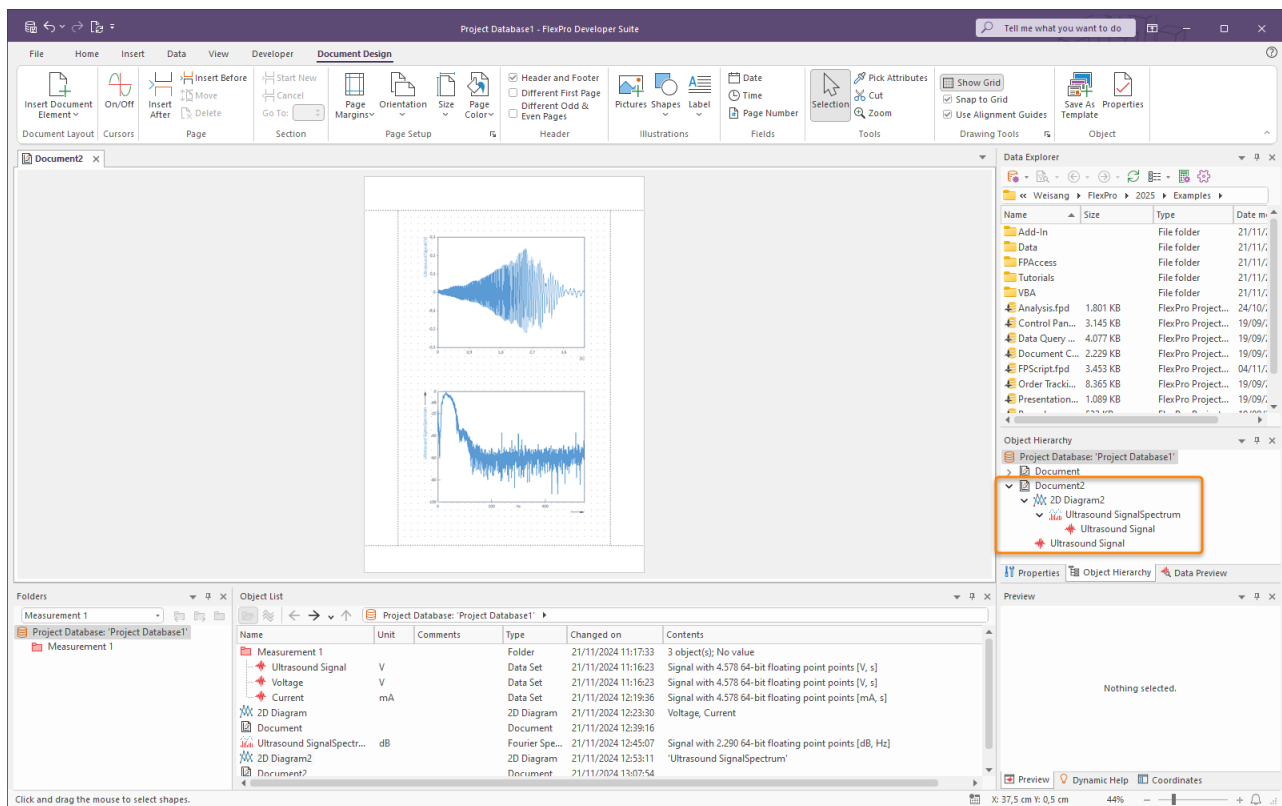


オブジェクトリストで **Ultrasound Signal** という名称のデータセットを選択します [1]。このデータをマウスの左ボタンを押しながらドキュメント内の配置したい場所へドラッグします [2]。マウスボタンを離すと、データセットの内容がドキュメントに表示されます [3]。

注意 データセットは、あらかじめそのダイアグラムを作成しなくてもドキュメントに直接ドラッグできます。ドキュメント内にデータセットを直接ドラッグすると、自動的にそのダイアグラムが作成されます。



次に、スペクトル解析を行った **2D Diagram2** をドキュメントに配置します [1]。オブジェクトリストで **2D ダイアグラム** を選択したら、マウスの左ボタンを押しながらドキュメントの空いた場所へドラッグし [2]、そこへドロップします [3]。



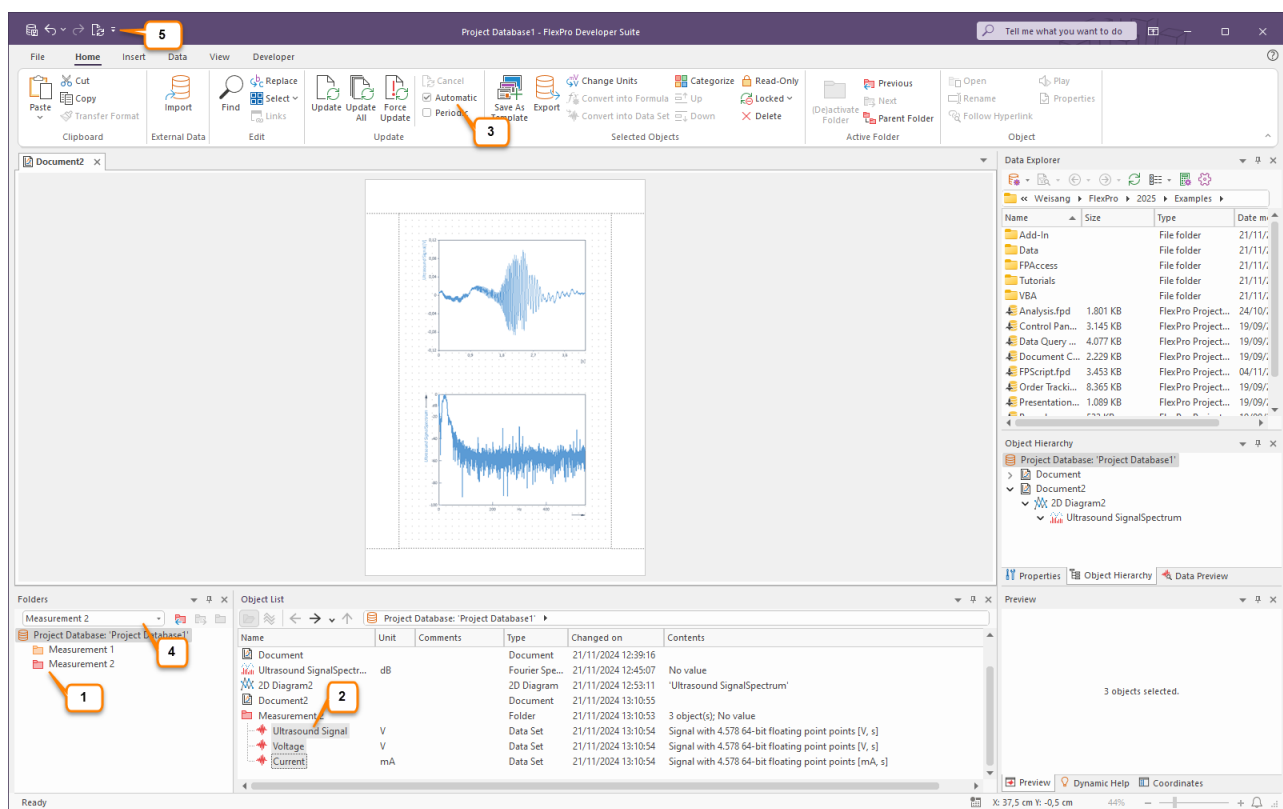
以上で、Measurement 1にあるUltrasound Signal とこの信号のスペクトル解析をあらわすドキュメントの作成が完了しました。

この評価ドキュメントの作成に使用した全てのオブジェクトは、動的ネットワークを形成します。ネットワークの内容はオブジェクト階層 ウィンドウに表示されます。つまり、この評価ドキュメントは、別の計測データの評価ドキュメントを作成する際のテンプレートとしてそのまま利用することができます。データフォルダーからMeasurement 2 ファイルをインポートします。

インポートに関するオプションについての情報は下記をご覧ください！

- [Excel データをインポートする](#) ⁸
- [計測機器から取得したデータをインポートする](#) ¹¹
- [テキストデータ\(ASCII ファイル\)をインポートする](#) ¹³

FlexProでは Measurement 2 という2 つ目のフォルダーが作成され、アクティブになります (赤いフォルダーアイコンで区別されます) [1]。オブジェクトリストにアクティブなフォルダーの内容が表示され [2]、ホーム [更新] > 自動 にチェックが入っているので、現在開いているウィンドウの内容がすべて更新されます [3]。



注意 各計測データはサブフォルダーをアクティブ化、非アクティブ化 リストボックス(フォルダーの上部) から適切なサブフォルダーを選択することで、いつでも切り替えることができます [4]。FlexPro は自動更新 オプションが選択されている限り、すべてのウィンドウを自動的に更新します。そうでない場合は、すべて更新 コマンドを使用して手動で更新を実行することもできます [5]。

必要であれば FlexPro で利用可能な他のオプションを試すことができます。以下のようなヒントが用意されています:

- UltrasoundSignalSpectrum オブジェクトをダブルクリックして、スペクトルのフォーマットを dB から「振幅」に変換する。
- 測定データの統計量を作成し、ドキュメント内/テーブルとして表示する。
- 解析結果を HTML ウェブページとしてエクスポートする。
- 幾つかのステップ/コマンドをマクロとして記録する。
- データセットを計算する公式を作成する。

オンラインヘルプで関連するヘルフトピックを検索する。

FlexPro セットアップには、幅広いトピックをカバーする追加のサンプルプロジェクトデータベースが含まれています。

例は、次のフォルダー C:\Users\Public\Documents\Weisang\FlexPro\<%VERSION_COMMERCIAL%>\Examples または日本語のフォルダー名で C:\ユーザー>\パブリック>\パブリックのドキュメント>Weisang\FlexPro><%VERSION_COMMERCIAL%>\Examples にあります。

以下のトピックを含みます:

- プレゼンテーションの例
- 解析の例
- 測定シリーズ解析の例
- データクエリとドキュメントコレクション
- FPScript の例
- 回数ランキングの例
- その他の例 (SPC、真円度、等)



The company and product names listed here are registered trademarks of the respective companies.
FlexPro is protected by international copyright law. Copyright © 1991 – 2025 Weisang GmbH.
Portions Copyright © 1996 Microsoft Corporation.
Dated 2026/01/27, subject to errors and changes.

